

ExcelCreator11 を Web アプリに組み込み EC2(AWS)の Windows Server 2022 にデプロイする

2023 年 9 月 21 日

目次

概要	1
実行環境の構築	2
AWS EC2 のインスタンスを作成する	2
リモートアクセスする為の機能をローカル端末に用意(RDP)	9
Windows Server の環境を構築	13
Windows Update の確認	13
言語やタイムゾーンの調整	14
IIS アプリのインストールを行う	20
IIS の動作を確認する	25
.NET Windows Server Hosting のインストールを行う	27
アプリケーションの配置	29
Web サーバーに配置する為のファイルを生成	29
アプリケーションを実行環境に移動	32
IIS を使用してアプリケーションを公開	33
アプリケーションプールの追加	33
Web サイトの追加	34
アクセス許可と認証の設定	35
アクセス許可の編集	36
認証資格情報の編集	38
ダウンロード後の Excel ファイル	41
[データ一覧]	41
[納品書]	42

概要

Amazon Web Service(AWS)の Elastic Compute Cloud(EC2)上に Windows Server 2022/.NET 6 の環境を構築し、Web アプリケーション(ASP.NET Core Web MVC)をデプロイするまでの流れを解説します。

手順の把握に主眼を置き、必要最低限の構成となります。また、作業者の IAM ユーザーアカウントに対し、AmazonEC2FullAccess のポリシーを付与しています。

利用サービス : AWS EC2

実行環境 : Microsoft Windows Server 2022 Base

.NET 6

IIS10

Microsoft Edge

開発環境 : Windows 11

.NET 6

Visual Studio 2022

手順 :

- Web アプリケーションを作成(本稿では割愛)
- 実行環境の構築
 - AWS EC2 のインスタンス作成 (Windows Server)
 - リモートアクセスする為の機能をローカル端末に用意(RDP)
 - Windows Server の環境を構築
- アプリケーションの配置
 - Web サーバーに配置する為のファイルを生成
 - アプリケーションを実行環境に移動
- IIS を使用してアプリケーションを公開
 - アプリケーションプールの追加
 - Web サイトの追加
 - 認証とアクセス許可の設定

実行環境の構築

以下の作業を行います。

- AWS EC2 のインスタンスを作成する
- リモートアクセスする為の機能をローカル端末に用意
- Windows Server の環境を構築

AWS EC2 のインスタンスを作成する

AWS にサインインして、EC2 サービスの利用を開始します。

コンソールのホーム画面が表示されたら、左上の“サービス”-“コンピューティング”から“EC2”を選択して下さい。

EC2 ダッシュボードが表示されたら、[インスタンスを起動]ボタンをクリックし、インスタンス(仮想サーバー)の作成を行います。



- 名前とタグ

インスタンスの名前を入力します。今回は“AdvEC2Sample”とします。

名前とタグ 情報

名前

[さらにタグを追加](#)

- ・ アプリケーションおよび OS イメージ

OS を選択します。今回は“Microsoft Windows Server 2022 Base”を選択します。

▼ アプリケーションおよび OS イメージ (Amazon マシンイメージ) 情報

AMI は、インスタンスの起動に必要なソフトウェア設定 (オペレーティングシステム、アプリケーションサーバー、アプリケーション) を含むテンプレートです。お探しのものが以下に表示されない場合は、AMI を検索または参照してください。

🔍 何千ものアプリケーションイメージと OS イメージを含むカタログ全体を検索します。

クイックスタート

Amazon Linux



Ubuntu



Windows



Red Hat



SUSE Linux



Debian



🔍

その他の AMI を閲覧する

AWS、Marketplace、コミュニティからの AMI を含む

Amazon マシンイメージ (AMI)

<p>Microsoft Windows Server 2022 Base</p> <p>ami-013d2da7ac0b9d3ce (64 ビット (x86))</p> <p>仮想化: hvm ENA 有効: true ルートデバイスタイプ: ebs</p>	<p>無料利用枠の対象 ▼</p>
--	-------------------

説明

Microsoft Windows Server 2022 Full Locale English AMI provided by Amazon

アーキテクチャ	AMI ID	
64 ビット (x86)	ami-013d2da7ac0b9d3ce	検証済みプロバイダー

- ・ インスタンスタイプ

CPU とメモリの仕様を選択します。今回は“t2.micro”を選択します。

▼ インスタンスタイプ 情報

インスタンスタイプ

<p>t2.micro</p> <p>ファミリー: t2 1 vCPU 1 GiB メモリ 現行世代: true</p> <p>オンデマンド Windows 料金: 0.0198 USD 1 時間あたり</p> <p>オンデマンド RHEL 料金: 0.0752 USD 1 時間あたり</p> <p>オンデマンド SUSE 料金: 0.0152 USD 1 時間あたり</p> <p>オンデマンド Linux 料金: 0.0152 USD 1 時間あたり</p>	<p>無料利用枠の対象 ▼</p>
--	-------------------

すべての世代

[インスタンスタイプを比較](#)

- キーペア(ログイン)

リモート接続用パスワードの復号に必要なキーペアを登録します。今回は新規にキーペアを作成します。

▼ キーペア (ログイン) 情報

キーペアを使用してインスタンスに安全に接続できます。インスタンスを起動する前に、選択したキーペアにアクセスできることを確認してください。

キーペア名 - 必須

選択 🔄 **新しいキーペアの作成**

Windows インスタンスの場合は、キーペアを使用して管理者パスワードを復号します。その後、復号されたパスワードを使用してインスタンスに接続します。

キーペア名は任意です。今回は“Sample”とします。

プライベートキーファイル形式は、.pem を選択します。

キーペアを作成 ×

キーペア名
キーペアを使用すると、インスタンスに安全に接続できます。

Sample

名前には最大 255 文字の ASCII 文字を使用できます。先頭または末尾にスペースを含めることはできません。

キーペアのタイプ

RSA
RSA で暗号化されたプライベートとパブリックのキーペア

ED25519
ED25519 で暗号化されたプライベートキーとパブリックのキーペア (Windows インスタンスではサポートされません)

プライベートキーファイル形式

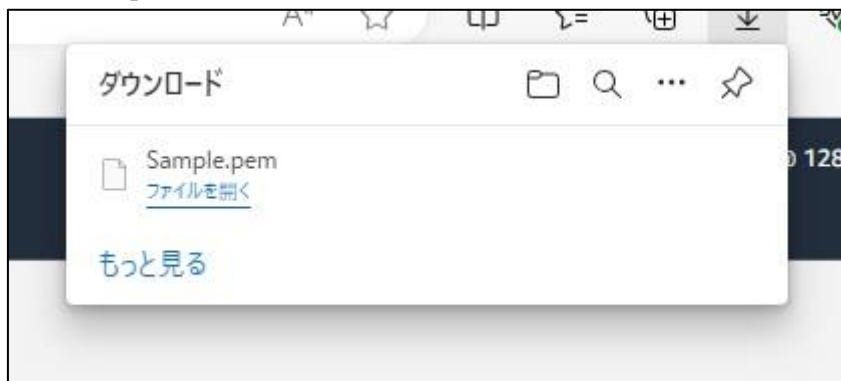
.pem
OpenSSH で使用する場合

.ppk
PuTTY で使用する場合

⚠ プロンプトが表示されたら、コンピュータの安全でアクセス可能な場所にプライベートキーを保存してください。後でインスタンスに接続するときに必要になります。 [詳細はこちら](#)

キャンセル **キーペアを作成**

[キーペアを作成]ボタンをクリックすると、プライベートキーファイルがダウンロードされます。



- ネットワーク設定

- ファイアウォール(セキュリティグループ)

今回は新規にセキュリティグループを作成します。

[セキュリティグループを作成する]にチェックを入れて作成を進めることで、VPC サービス内のセキュリティグループ(ファイアウォールルール)が新規に作成されます。

“RDP トラフィックを許可する”にチェックを入れて作成を進めることで、専用ポートの解放が行われ、ローカル環境端末からのリモート接続が可能になります。

また、“インターネットからの HTTP トラフィックを許可”にチェックを入れることで、インターネット経由でのアクセスが可能になります(IPv4 のみ)。

▼ ネットワーク設定 情報 編集

ネットワーク 情報
vpc-349bea5d

サブネット 情報
優先順位なし (アベイラビリティゾーンのデフォルトサブネット)

パブリック IP の自動割り当て 情報
有効化

ファイアウォール (セキュリティグループ) 情報
セキュリティグループとは、インスタンスのトラフィックを制御する一連のファイアウォールルールです。特定のトラフィックがインスタンスに到達できるようにルールを追加します。

セキュリティグループを作成する 既存のセキュリティグループを選択する

次のルールを使用して、「launch-wizard-1」という新しいセキュリティグループを作成します。

からの RDP トラフィックを許可する
インスタンスへの接続 任意の場所
0.0.0.0/0

インターネットからの HTTPS トラフィックを許可
エンドポイントをセットアップするには (ウェブサーバーの作成時など)

インターネットからの HTTP トラフィックを許可
エンドポイントをセットアップするには (ウェブサーバーの作成時など)

⚠ 送信元が 0.0.0.0/0 のルールを指定すると、すべての IP アドレスからインスタンスにアクセスすることが許可されます。セキュリティグループのルールを設定して、既知の IP アドレスからのみアクセスできるようにすることをお勧めします。 ✕

- ・ ストレージを設定

OS イメージに Windows Server を選択した場合は、1x 30GiB が標準設定です。ストレージタイプは任意のものを選択して下さい。今回は汎用 SSD(gp2)を指定します。

▼ ストレージを設定 情報 アドバンスト

1x GiB ▼ ルートボリューム (暗号化なし)

ℹ 無料利用枠の対象のお客様は、最大 30 GB の EBS 汎用 (SSD) ストレージまたはマグネティックストレージを取得できます。 ✕

[新しいボリュームを追加](#)

選択した AMI には、インスタンスで許可されているよりも多くのインスタンスストアボリュームが含まれています。インスタンスからアクセスできるのは、AMI の最初の 0 のインスタンスストアボリュームだけです。

0x ファイルシステム [編集](#)

- ・ 高度な詳細

必要に応じて適宜設定して下さい。今回は何も変更せず、デフォルトのまま進めます。

選択内容を確認し、[インスタンスを起動]ボタンを押すと、インスタンス作成が開始、起動されます。

🟢 成功
インスタンスの起動を正常に開始しました (i-09976ecc15e938d1d)

▼ ログの開始

リクエストの初期化中	🟢 成功しました
セキュリティグループの作成中	🟢 成功しました
セキュリティグループールの作成	🟢 成功しました
起動を開始	🟢 成功しました

次のステップ

請求および無料利用枠使用状況アラートの作成
コストを管理し、予期しない請求を回避するには、請求に関する E メール通知と無料利用枠の使いしきい値を設定します。
[請求アラートの作成](#)

インスタンスに接続する
インスタンスが実行を開始したらローカルコンピュータからログインします。
[インスタンスに接続](#)
[詳細はこちら](#)

RDS データベースに接続する
EC2 インスタンスとデータベース間の接続を安定し、その間のトラフィックフローを許可します。
[RDS データベースに接続する](#)
[新しい RDS データベースを作成する](#) [詳細はこちら](#)

[すべてのインスタンスを表示](#)

インスタンスの起動後、ステータスのチェックが実行されます。

作成したインスタンスの概要ページ下部にある“ステータスチェック”タブから確認が可能です。

システムステータス、インスタンスステータスの両方が合格になれば、正常に起動完了です。

詳細 | セキュリティ | ネットワーキング | ストレージ | **ステータスチェック** | モニタリング | タグ

ステータスチェック 情報

ステータスチェックは、I-09976ece15e938d1c (AdvEC2Sample) によるアプリケーションの実行を妨げる可能性のある問題を検出します。

システムステータスのチェック 🟢 システムの接続性チェックに合格しました	インスタンスステータスのチェック 🟢 インスタンスの接続性チェックに合格しました
---	---

このインスタンスで発生している状況がチェックに反映されていない場合、または発生している問題が検出されない場合、インスタンスステータスをレポートします。

リモートアクセスする為の機能をローカル端末に用意(RDP)

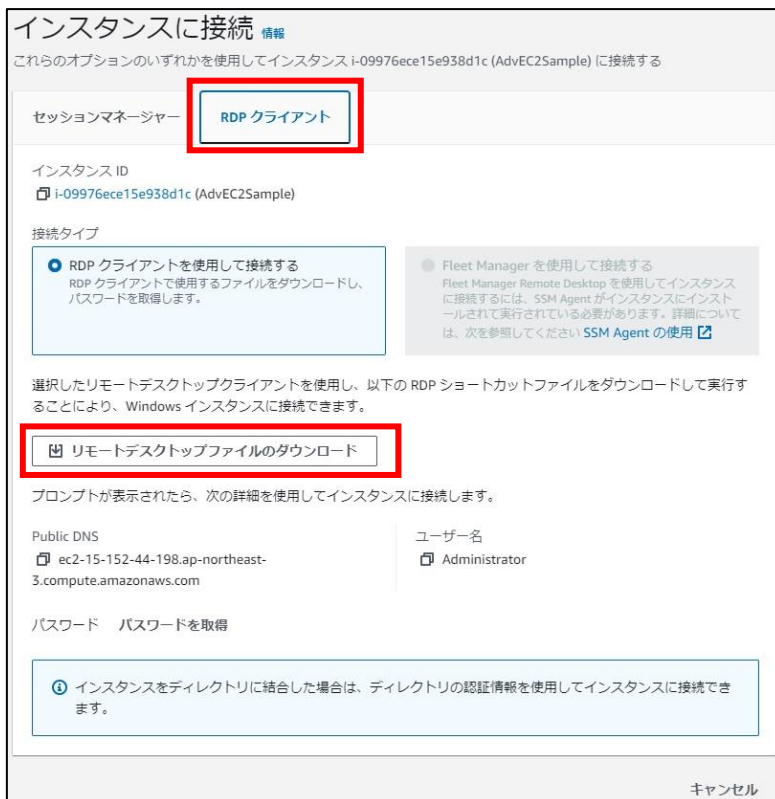
作成したサーバーにリモート接続する準備を行います。

インスタンス概要ページ内の[接続]ボタンをクリックし、[インスタンスに接続]画面に移動します。



“インスタンス情報の記述に失敗～”の旨のエラーが出ますが、セッションマネージャーを利用してリモート接続しない場合は問題ありません。

画面内で[RDP クライアント]を選択し、[リモートデスクトップファイルのダウンロード]をクリックすると、リモート接続用のアイコンがダウンロードできます。このアイコンをデスクトップ画面上などに配置し、ダブルクリックすることで AWS 上の Windows Server にリモート接続できます。



実際に接続を試す前に、“パスワードを取得”をクリックし、リモート接続に必要なパスワードを取得します。

インスタンスに接続 情報

これらのオプションのいずれかを使用してインスタンス i-09976ece15e938d1c (AdvEC2Sample) に接続する

セッションマネージャー **RDP クライアント**

インスタンス ID
i-09976ece15e938d1c (AdvEC2Sample)

接続タイプ

- RDP クライアントを使用して接続する
RDP クライアントで使用するファイルをダウンロードし、パスワードを取得します。
- Fleet Manager を使用して接続する
Fleet Manager Remote Desktop を使用してインスタンスに接続するには、SSM Agent がインスタンスにインストールされて実行されている必要があります。詳細については、次を参照してください [SSM Agent の使用](#)

選択したリモートデスクトップクライアントを使用し、以下の RDP ショートカットファイルをダウンロードして実行することにより、Windows インスタンスに接続できます。

リモートデスクトップファイルのダウンロード

プロンプトが表示されたら、次の詳細を使用してインスタンスに接続します。

Public DNS
ec2-15-152-44-198.ap-northeast-3.compute.amazonaws.com

ユーザー名
Administrator

パスワード **パスワードを取得**

! インスタンスをディレクトリに結合した場合は、ディレクトリの認証情報を使用してインスタンスに接続できません。

キャンセル

インスタンス作成時に作成したプライベートキーファイル(.pem)をアップロードし、[パスワードを復号化]ボタンをクリックします。

Windows パスワードを取得 情報

プライベートキーを使って、このインスタンスの最初の Windows 管理者パスワードを取得して復号します。

インスタンス ID
i-09976ece15e938d1c (AdvEC2Sample)

このインスタンスに関連付けられたキーペア
Sample

プライベートキー
プライベートキーファイルをアップロードするか、その内容をコピーして下のフィールドに貼り付けます。

プライベートキーファイルのアップロード

プライベートキーの内容 - オプション

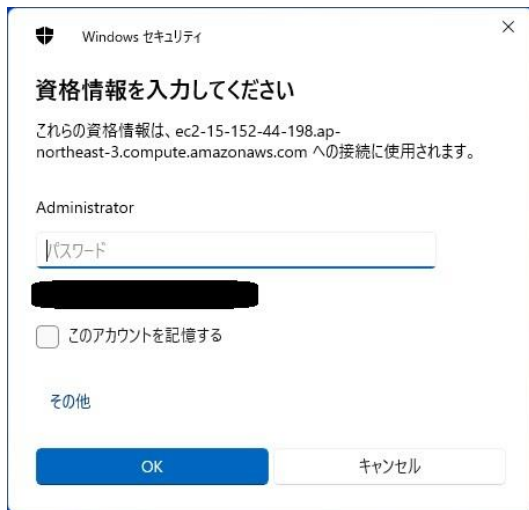
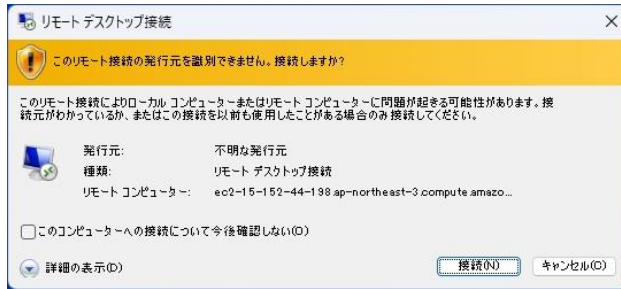
プライベートキーの内容

キャンセル **パスワードを復号化**

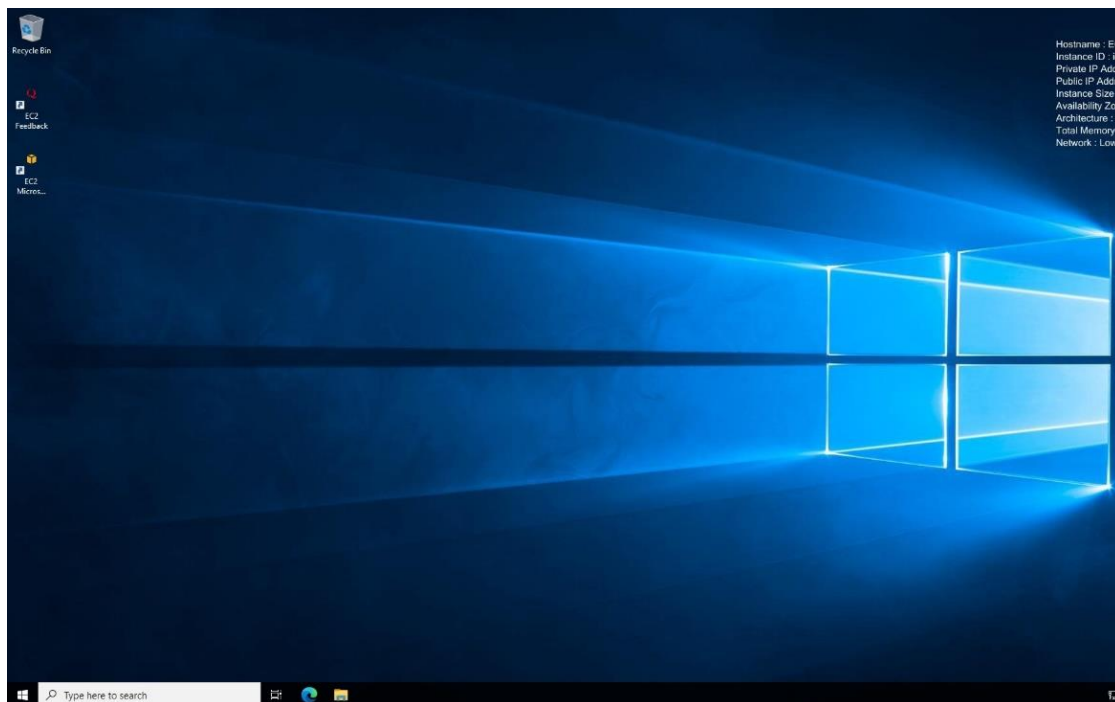
RDP クライアントの画面に戻り、“パスワードを取得”が表示されていた辺りに、生成されたパスワードが表示されています。このパスワードはコピーして、保管して下さい。

ローカル環境のデスクトップ画面上など、任意の場所に配置したリモート接続のアイコンをダブルクリックし、リモート接続します。発行元の識別やセキュリティ証明書エラーは「接続」「はい」で進めて問題ありません。また、資格情報の入力を要求されるので、先ほど保管したパスワードを入力します。

“このアカウントを記憶する”にチェックを入れると、次回以降パスワードの入力が不要になるので、必要に応じてチェックを入れて下さい。



リモート接続され、Windows のデスクトップ画面が表示されたら接続成功です。



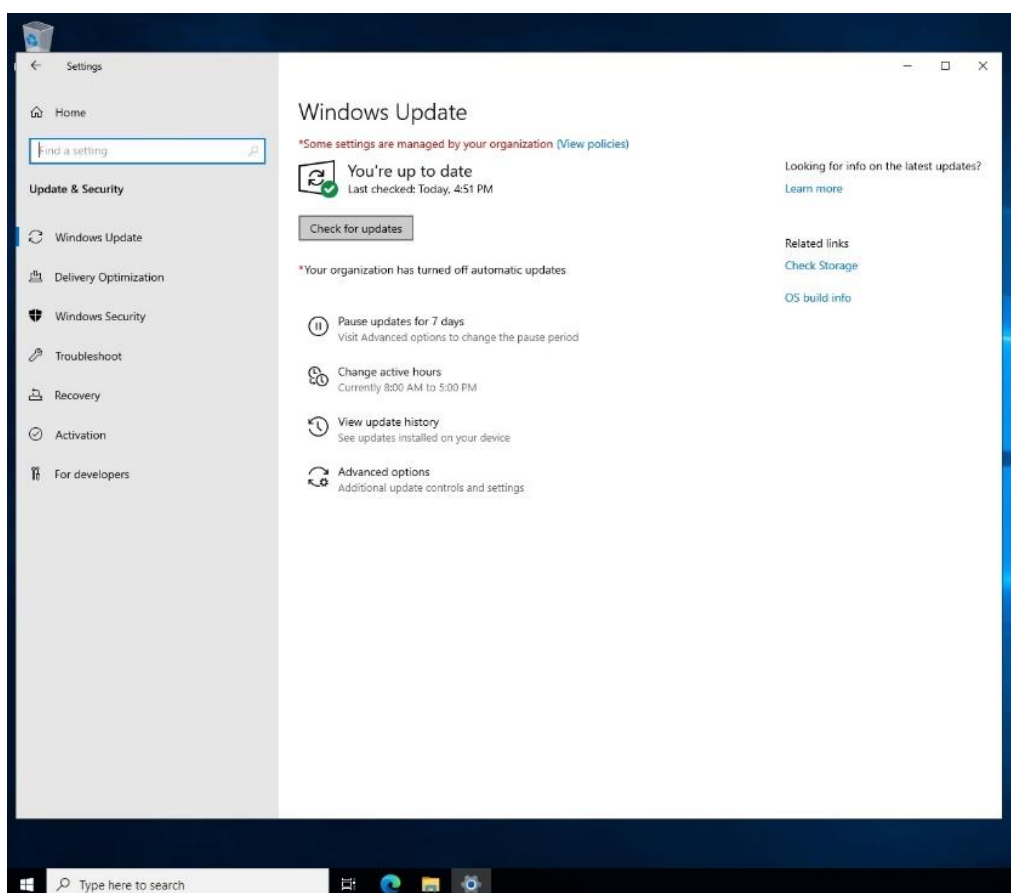
Windows Server の環境を構築

以下の作業を行います。

- Windows Update の確認
- 言語やタイムゾーンの調整
- IIS アプリのインストール、動作確認
- .NET Windows Server Hosting のインストール

Windows Update の確認

左下のスタートボタン–Settings(設定)–Update & Security(更新とセキュリティ)から、[Check for Update]をクリックし、Windows Update を確認します。



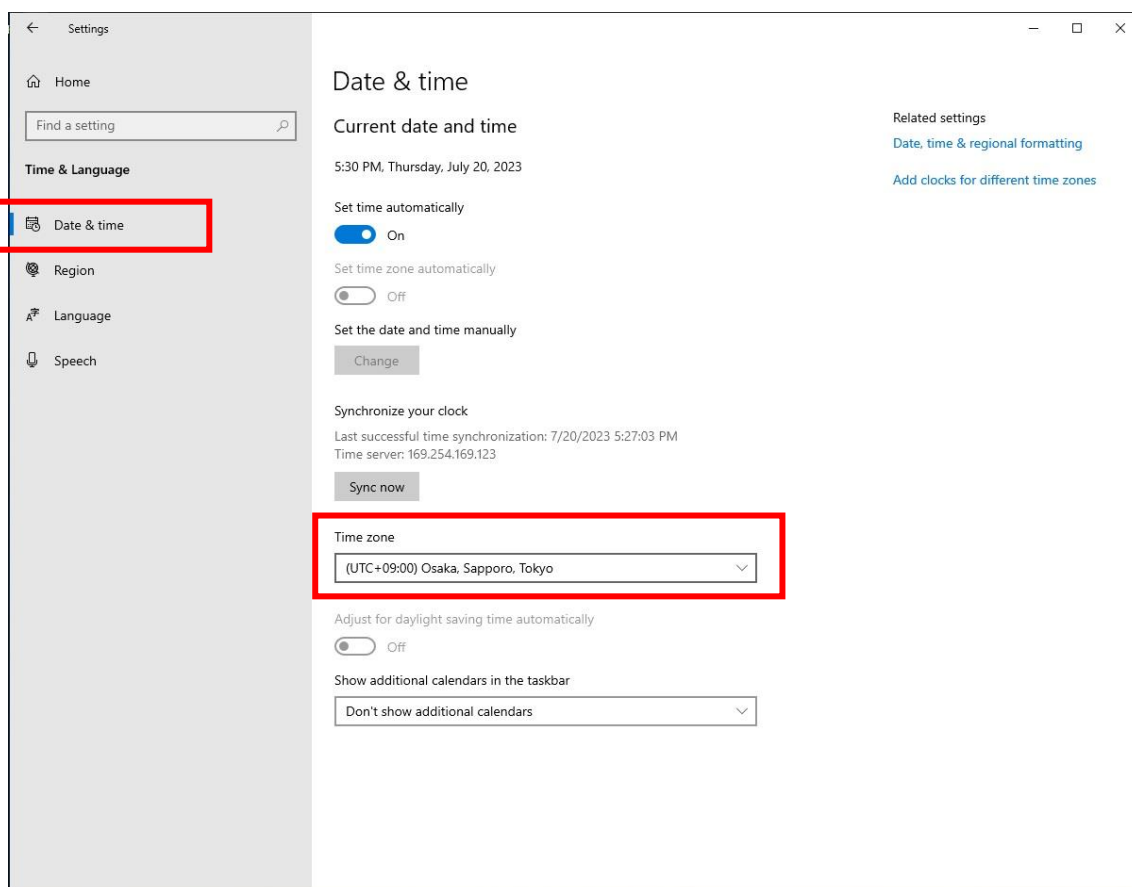
言語やタイムゾーンの調整

作成したばかりの Windows Server は、標準ではタイムゾーンやリージョン、言語が日本向けではない為、必要に応じて変更して下さい。今回は日本向けの設定に調整します。

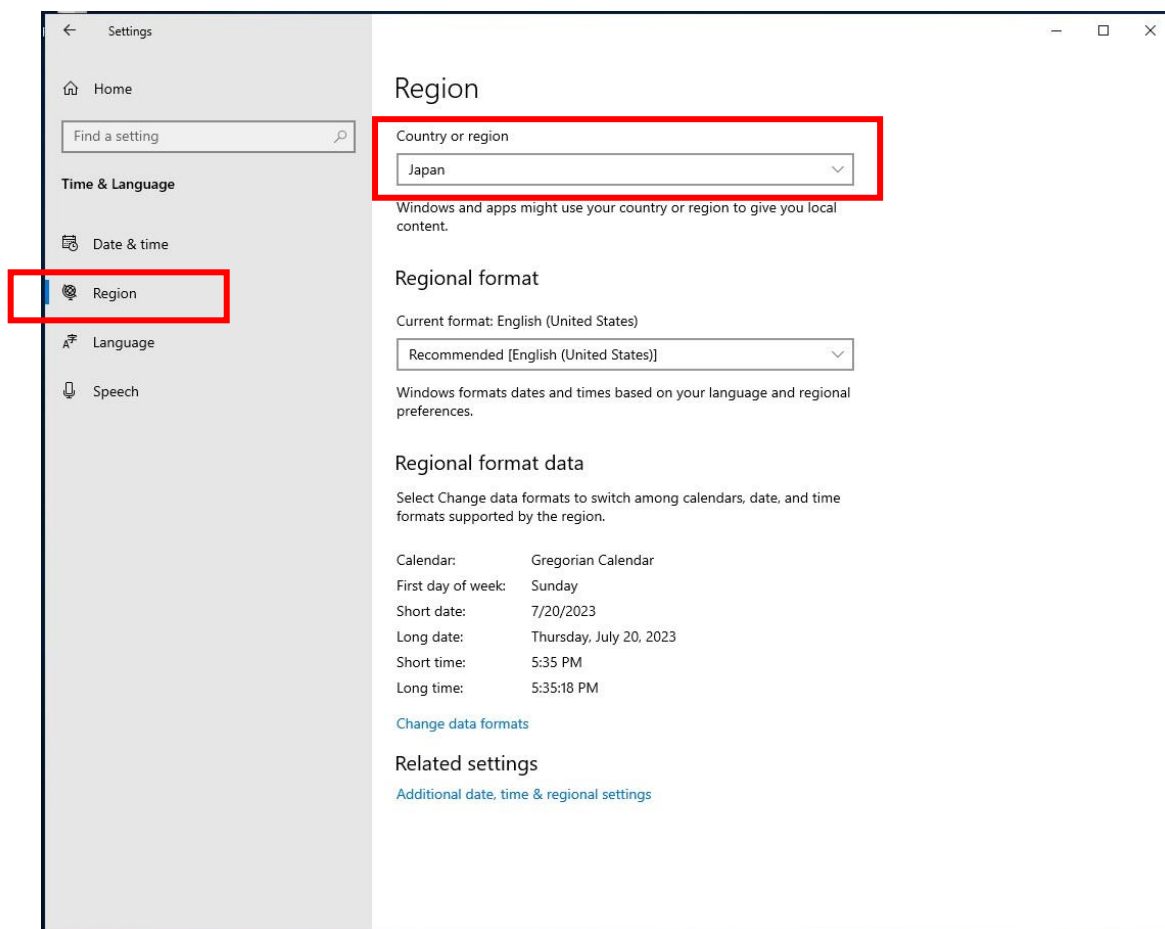
左下のスタートボタン-Settings(設定)-Time & Language(時刻と言語)から、各項目を変更します。Speech(音声認識)は今回設定しません。

Date & time ページ内で、タイムゾーンを変更します。

今回は“(UTC+09:00) Osaka, Sapporo, Tokyo”に変更します。



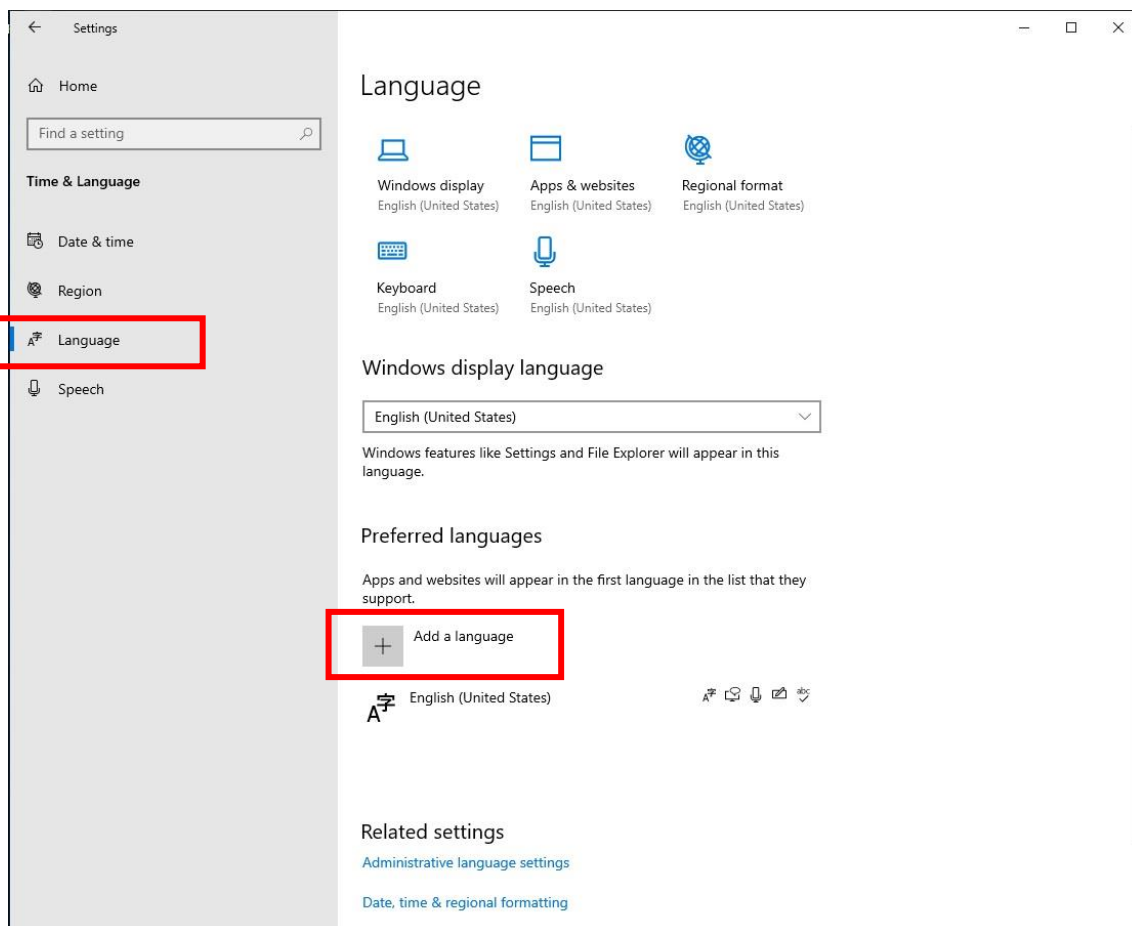
続いて、Region ページ内で、国や地域を変更します。
今回は Country or region で“Japan”を選択します。



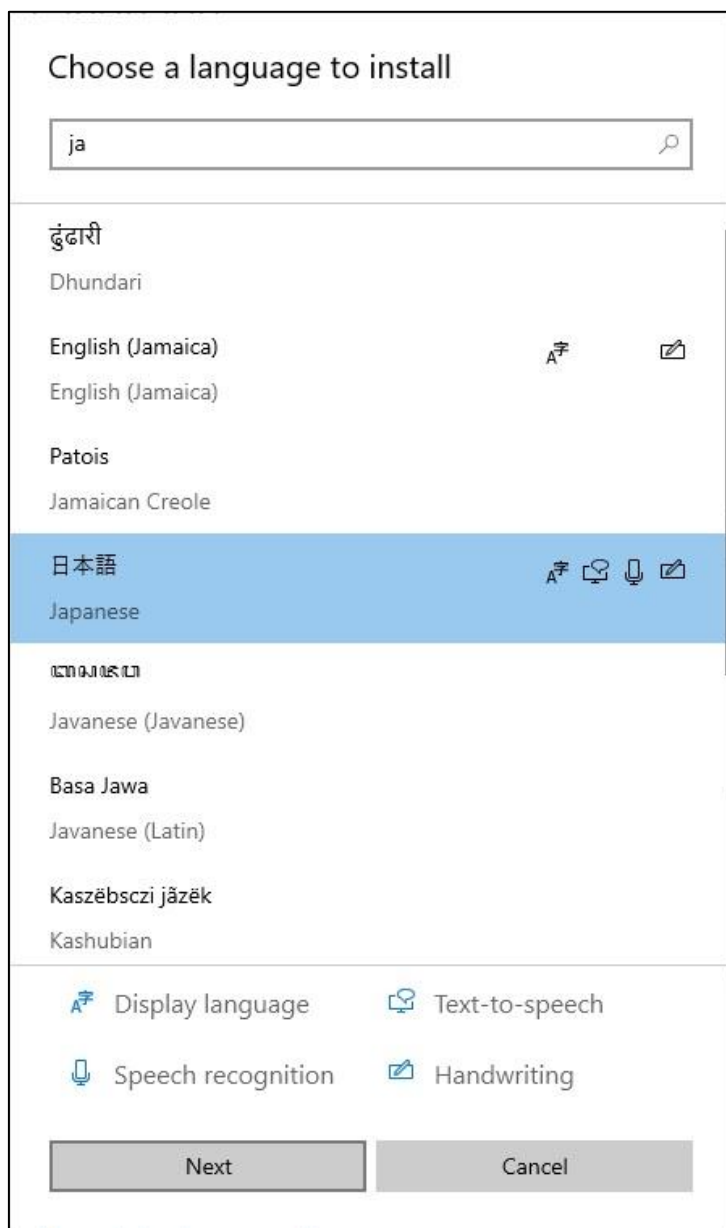
次に、Language ページ内で、言語の変更を行います。

日本語の言語パックはインストールされておらず、“Windows display language”のドロップダウンリストには日本語が表示されません。適用するために、まずは言語パックのインストールが必要です。

田 Add a language をクリックし、追加する言語を選択します。



言語を検索するウィンドウが開きます。テキストボックスに“ja”などを入力すると、候補が検索され、日本語を簡単に見つけることができます。日本語を選択して[Next]ボタンをクリックします。



次に、インストールする項目を選択します。
今回はデフォルトのまま[Install]ボタンをクリックします。

Install language features

Preferred language

日本語

Optional language features

- Install language pack ⓘ
- Set as my Windows display language ⓘ
- Text-to-speech (34 MB) ⓘ
- Speech recognition (38 MB) ⓘ
- Handwriting (23 MB) ⓘ

Required language features

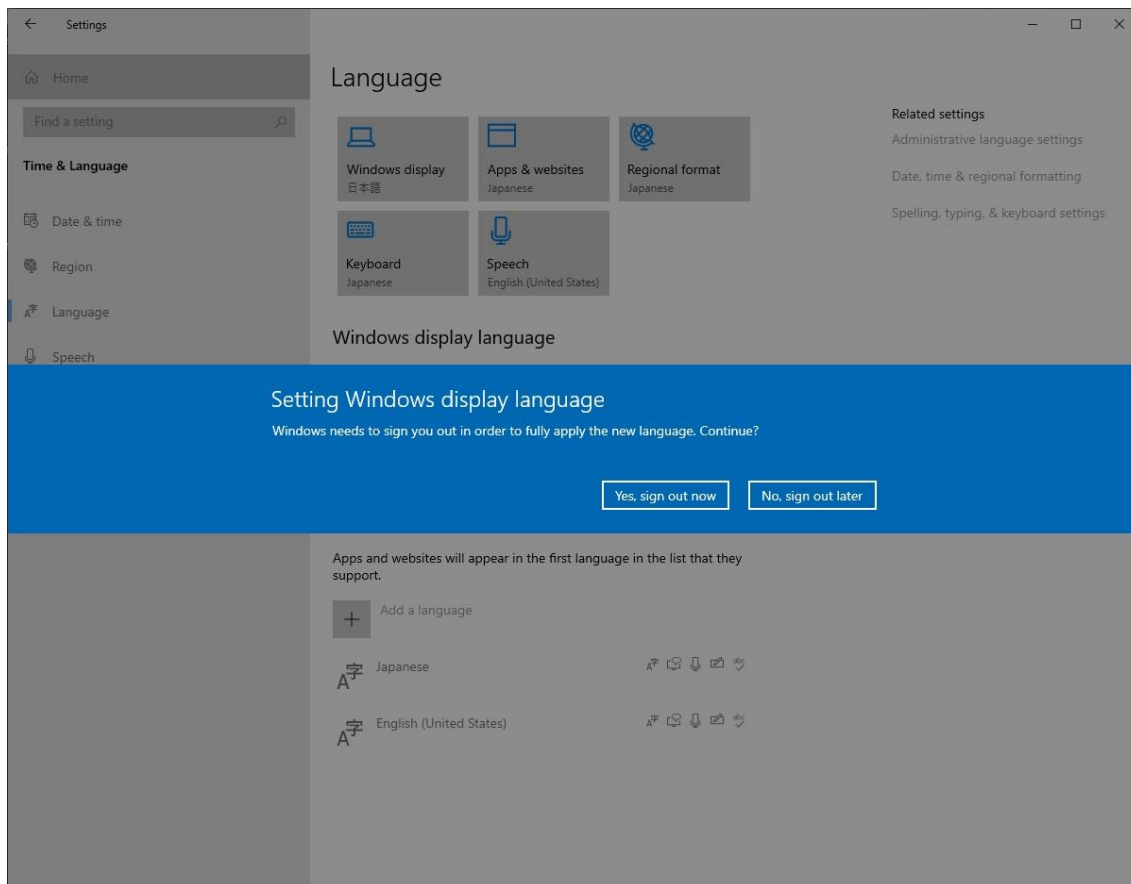
- Basic typing (1 MB) ⓘ
- Optical character recognition (1 MB) ⓘ
- Supplemental fonts (1 MB) ⓘ

[Choose a different language](#)

Install Cancel

言語パックのインストールが完了すると、“Windows display language”のドロップダウンリストで日本語が選択できるようになります。これを選択する事で、表示言語が日本語に変更されます。

変更を反映させるには、一度サインアウトする必要があります。[Yes, sign out now]でサインアウトし、数分ほど時間を空けて再度リモート接続しましょう。



再接続し、日本語表示が適用されていれば設定完了です。

IIS アプリのインストールを行う

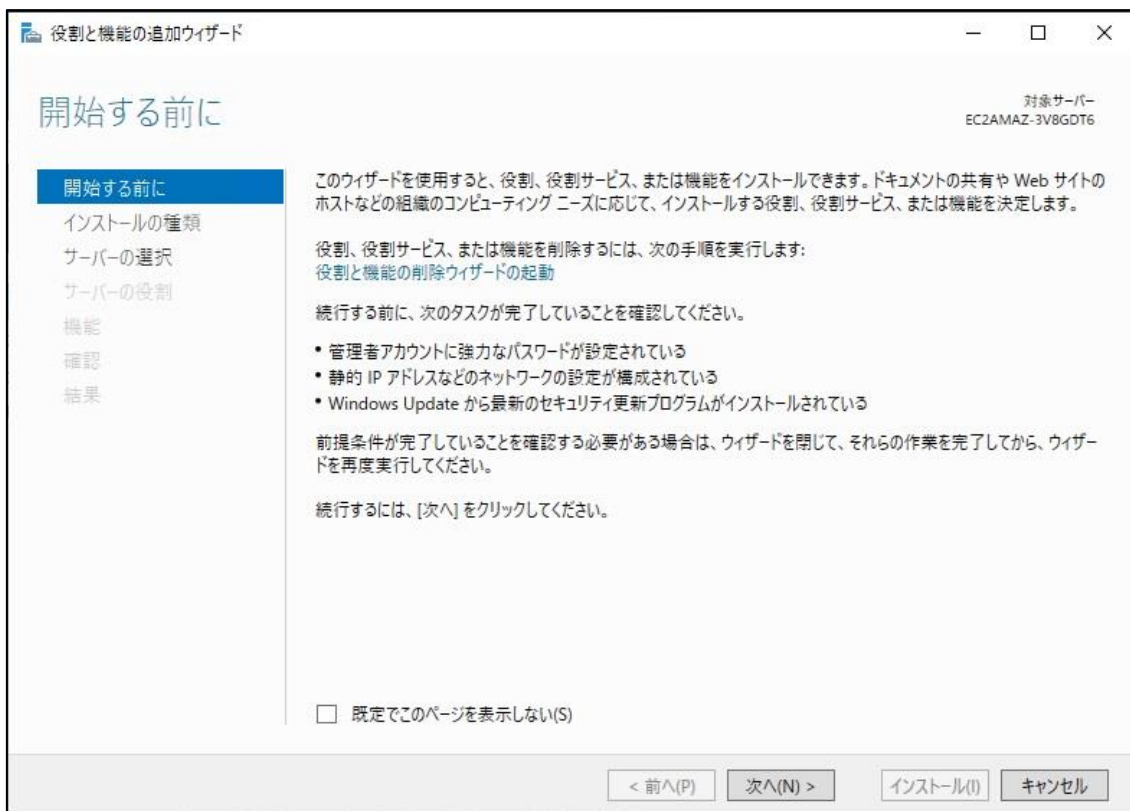
サーバーマネージャーを起動します。

初回起動時はサーバーの情報をチェックしていて、少しのあいだ操作を受け付けません。

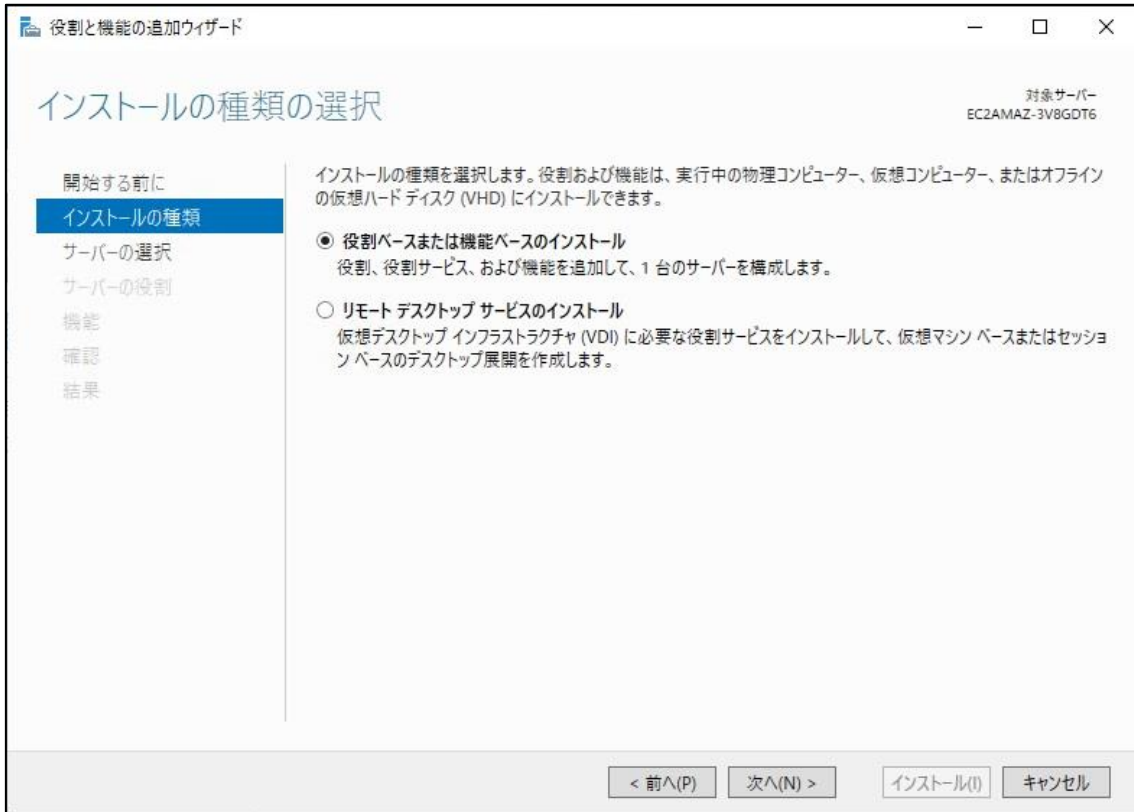
②役割と機能の追加 部分をクリックし、機能のインストールを行います。



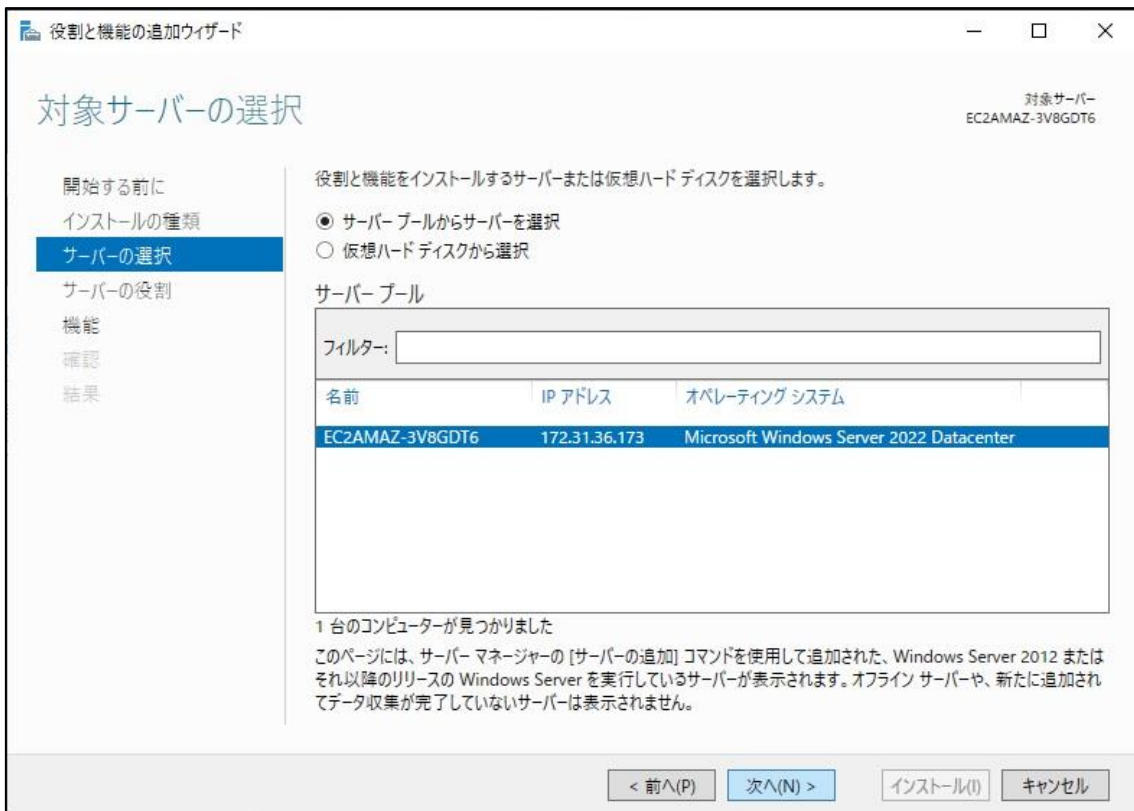
“開始する前に”の内容を確認し、[次へ]をクリックします。



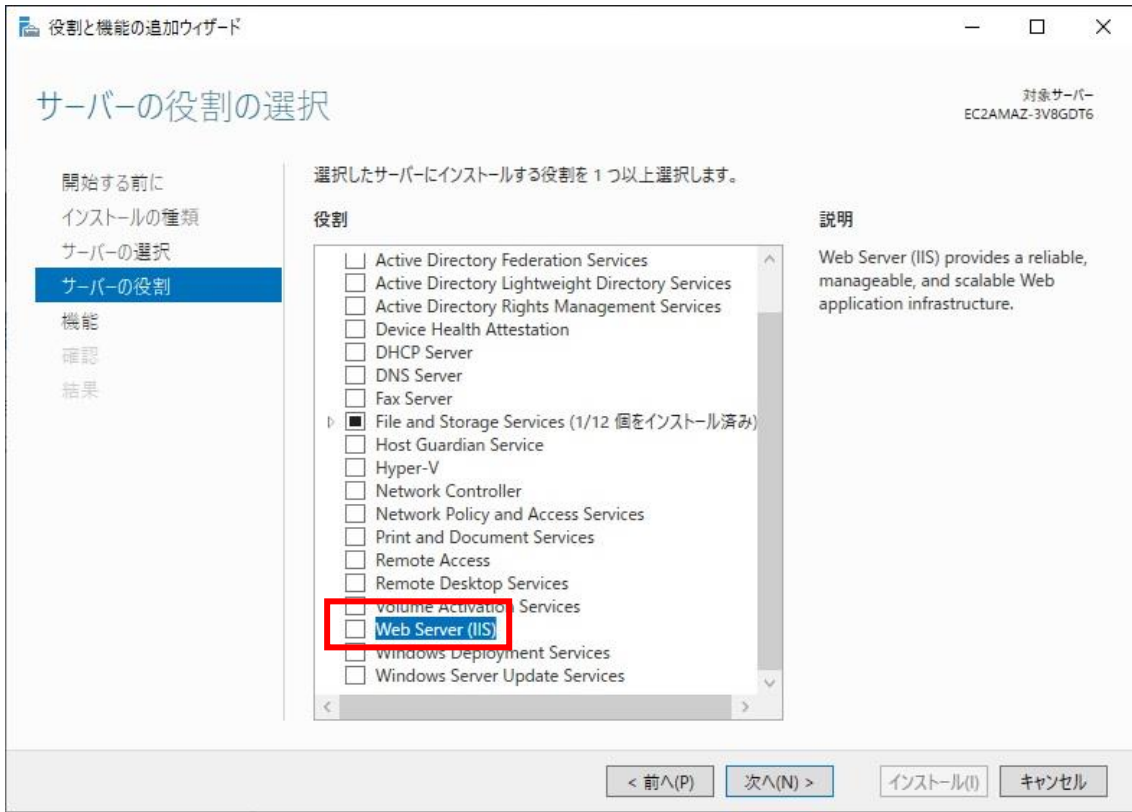
インストールの種類：役割ベースまたは機能ベースのインストールを選択して[次へ]をクリックします。



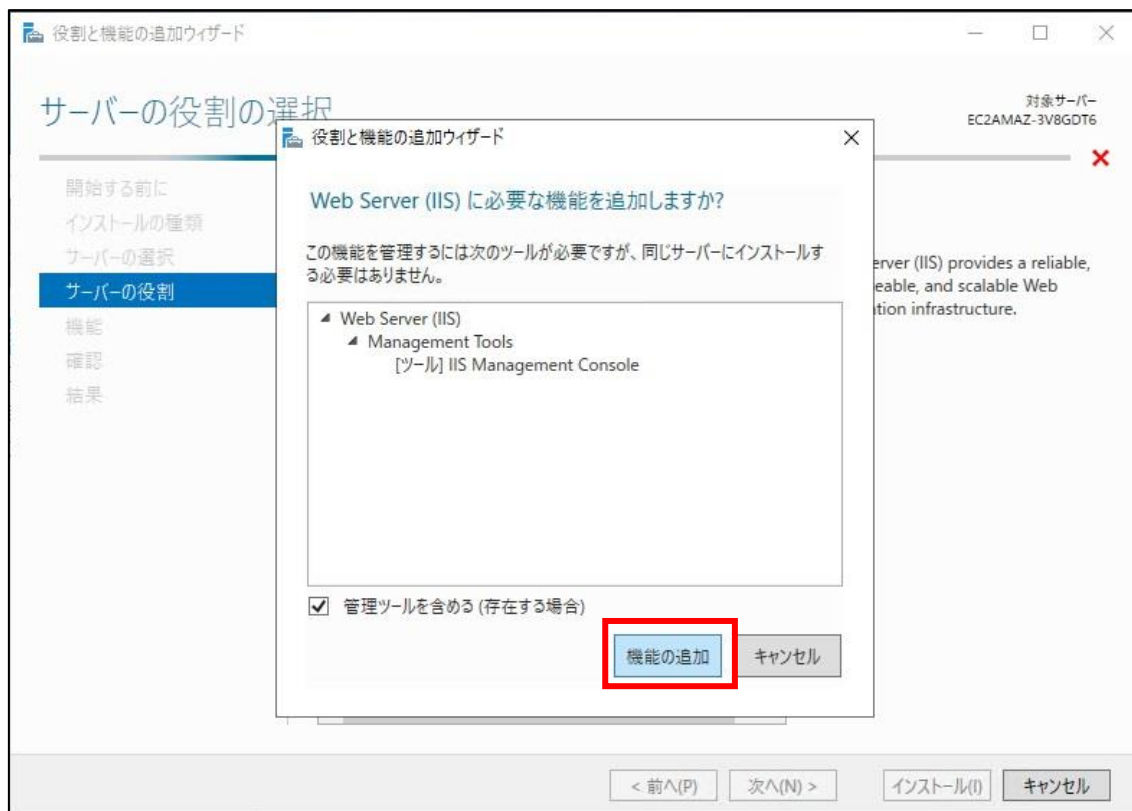
サーバーの選択：サーバープールからサーバーを選択 を選択状態で、アクセス中のサーバーを選択します。



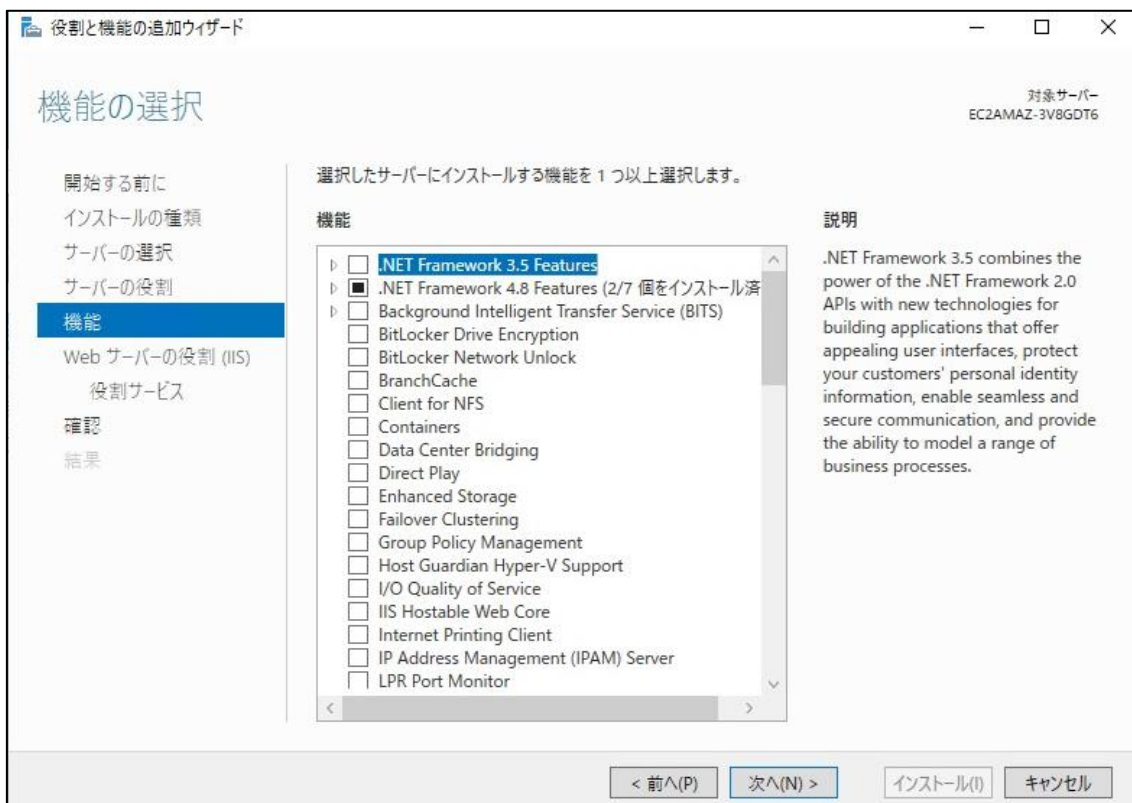
役割の選択：リストの中から“Web Server(IIS)”を探し、チェックを入れて[次へ]をクリックします。



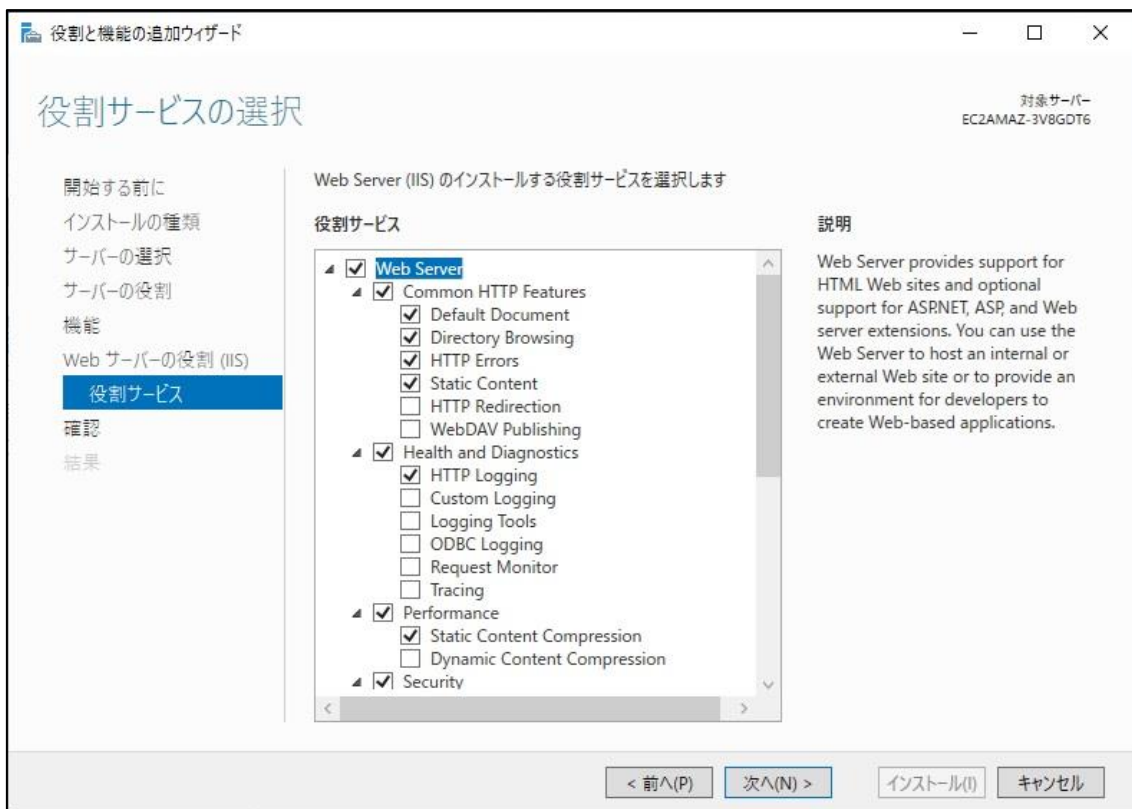
追加を確認する画面が出現しますが、デフォルトのままで[機能の追加]をクリックします。



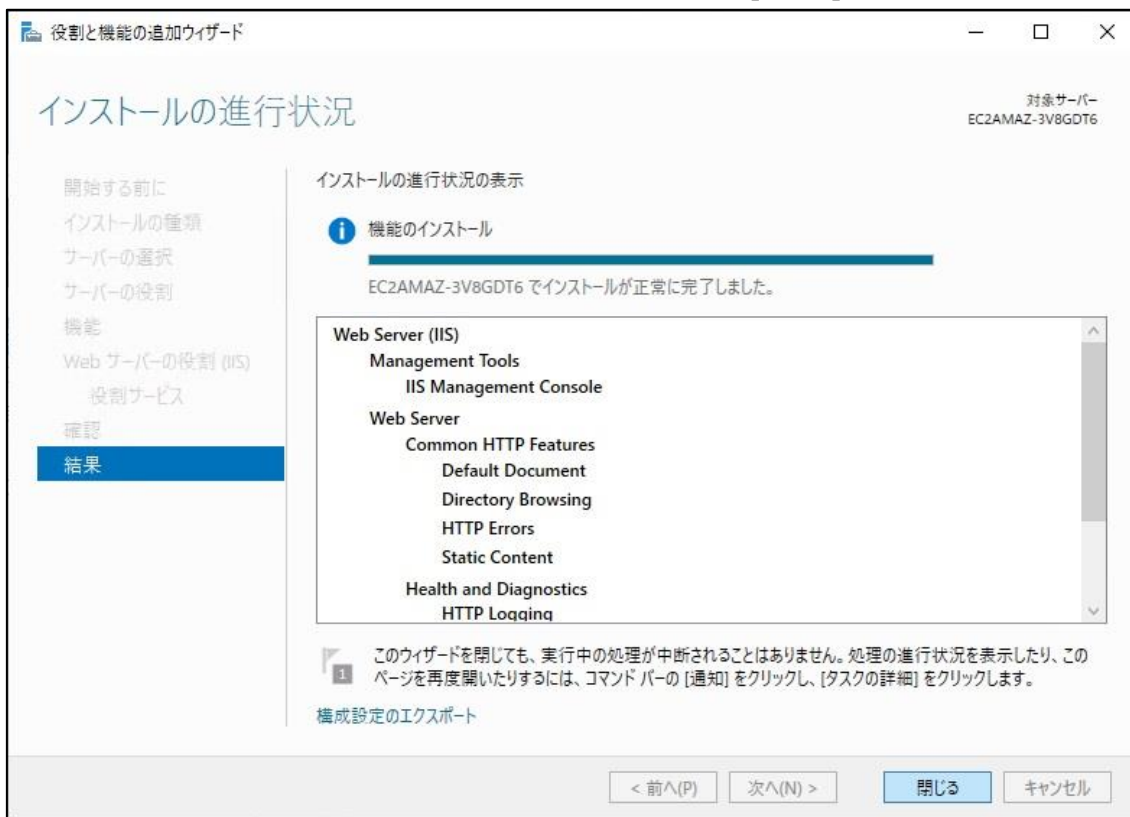
機能の選択：必要な機能が有る場合、適宜追加します。今回はデフォルトのまま[次へ]をクリックします。



役割サービス：必要な機能が有る場合、適宜追加します。今回はデフォルトのまま[次へ]をクリックします。



指定した条件で機能のインストールが実行されます。正常完了したら[閉じる]で終了します。



インストール完了後、サーバーマネージャー上に IIS の表示が追加されます。



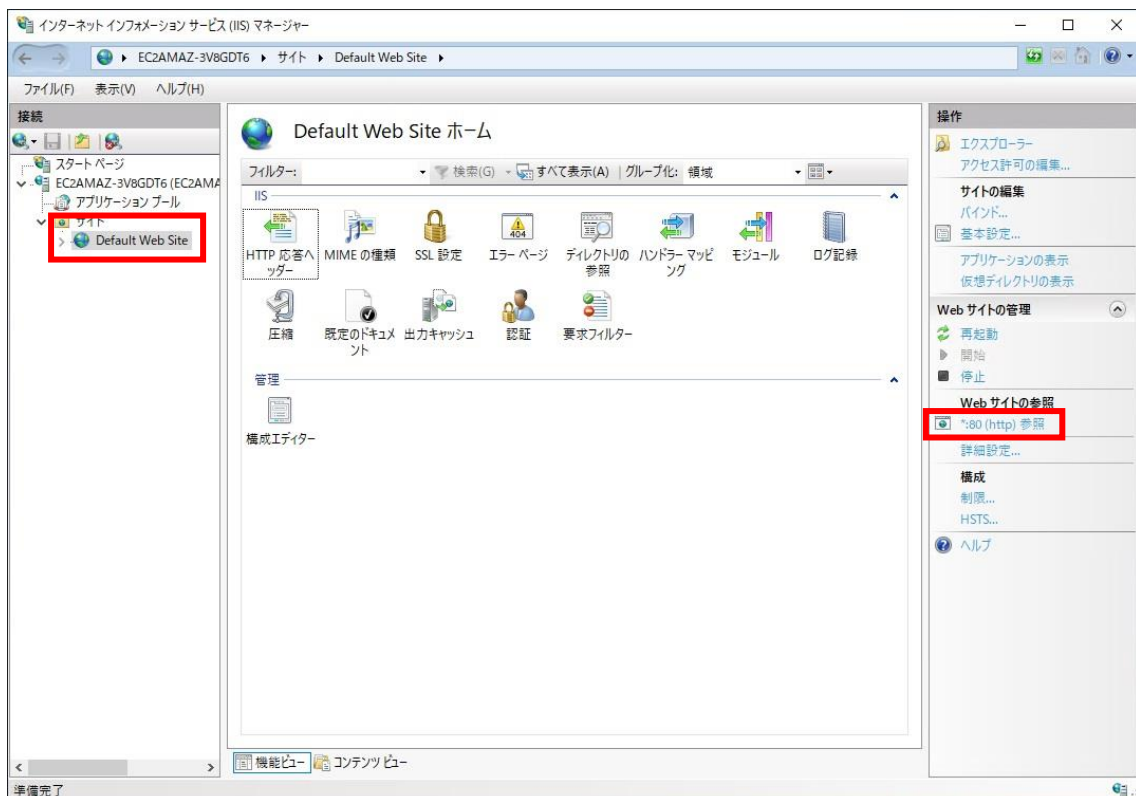
IIS の動作を確認する

インターネット インフォメーション サービス(IIS)マネージャーを起動し、動作を確認します。

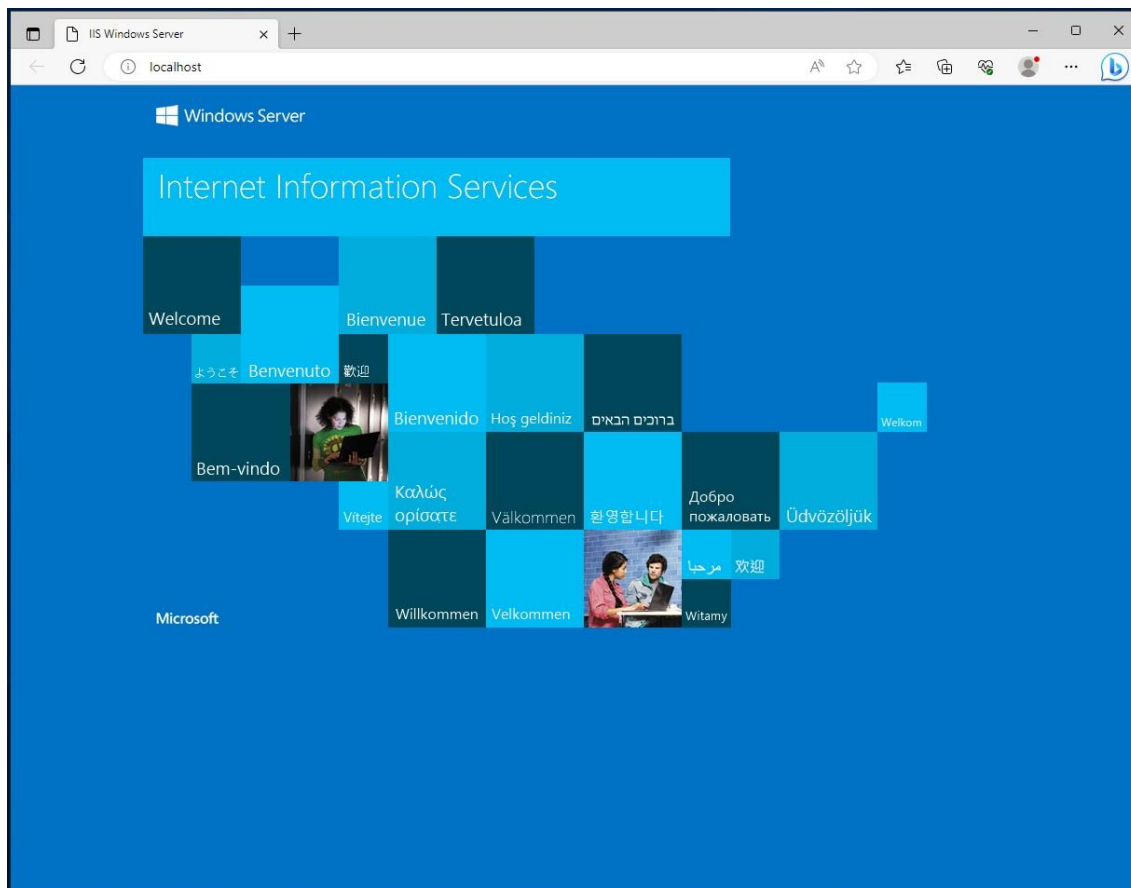


左メニューバーのリストを展開し、[🌐 Default Web Site]をクリックします。

右カラム中段の“Web サイトの参照 *:80(http) 参照”をクリックし、ブラウザで Web ページが表示可能か確認します。



Web ブラウザーが起動し、青い画面が表示されれば、IIS の動作に問題はありません。

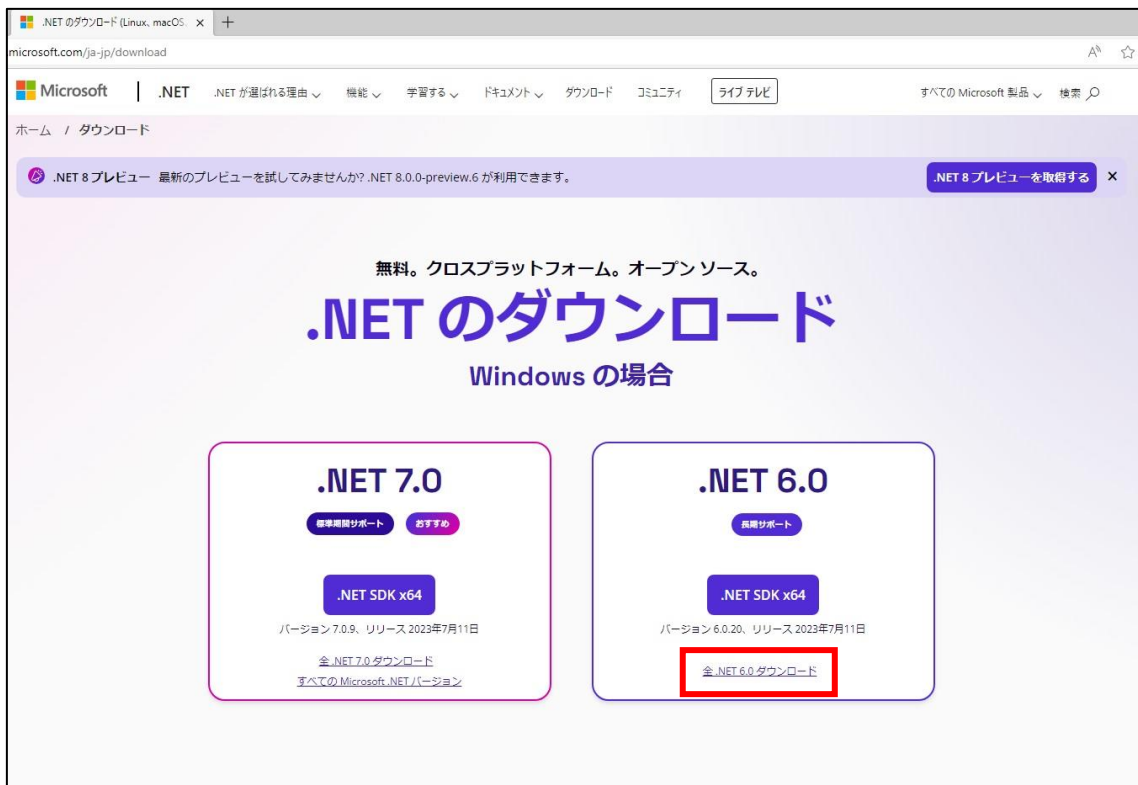


リモート接続の画面は最小化しておき、ローカル環境からも同じページにアクセス可能か確認します。
AWS EC2 画面でインスタンスのパブリック IPv4 アドレス、もしくはパブリック IPv4 DNS をコピーし、
Web ブラウザーのアドレスバーにペーストしてアクセスします。
先程と同じページが表示されれば、IIS の動作確認は完了です。

.NET Windows Server Hosting のインストールを行う

IIS で ASP.NET Core の Web アプリケーションを公開するには、Hosting Bundle に含まれる IIS runtime support(ASP.NET Core Module)が必要になります。

Windows Server 上で Web ブラウザーを起動し、“Microsoft”、“.net”などで検索し.NET のダウンロードページにアクセスします。



公開する Web アプリケーションの.NET バージョンに合ったページにアクセスし、Hosting Bundle をダウンロードします。今回は.NET 6.0 版をダウンロードします。

“全 .NET 6.0 ダウンロード”のリンクをクリックして.NET 6.0 コンポーネントのダウンロードページに移動します。

.NET 6.0 のダウンロードページへ移動したら、画面内で“ASP.NET Core ランタイム”のエリアを探します。ダウンロードリンクの中から“Hosting Bundle”を見つけたら、クリックしてダウンロードします。

アプリの実行 - ランタイム ①

ASP.NET Core ランタイム 6.0.20

ASP.NET Core ランタイムを使用すると、既存の Web/サーバー アプリケーションを実行できます。Windows では、.NET ランタイムと IIS サポートを含むホスティングバンドルをインストールすることをお勧めします。

IIS ランタイム サポート (ASP.NET Core モジュール v2)
16.0.23172.20

OS	インストーラー	バイナリ
Linux	パッケージマネージャーの手順	Arm32 Arm32 Alpine Arm64 Arm64 Alpine x64 x64 Alpine
macOS		Arm64 x64
Windows	Hosting Bundle x64 x86 winget の手順	Arm64 x64 x86

インストーラーがダウンロード出来たら、インストールを行います。

Microsoft .NET 6.0.20
Windows Server Hosting

Microsoft .NET 6.0.20 - Windows Server Hosting のセットアップへようこそ。

インストールの完了後に IIS を再起動してください。追加情報については、[こちら](#)を参照してください。

Microsoft .NET 6.0.20 - Windows Server Hosting [ライセンス条項およびプライバシーに関する声明](#)。

ライセンス条項および使用条件に同意する(A)

インストール(I) 閉じる(C)

インストール完了後、IIS マネージャーからサーバーを再起動して下さい。

アプリケーションの配置

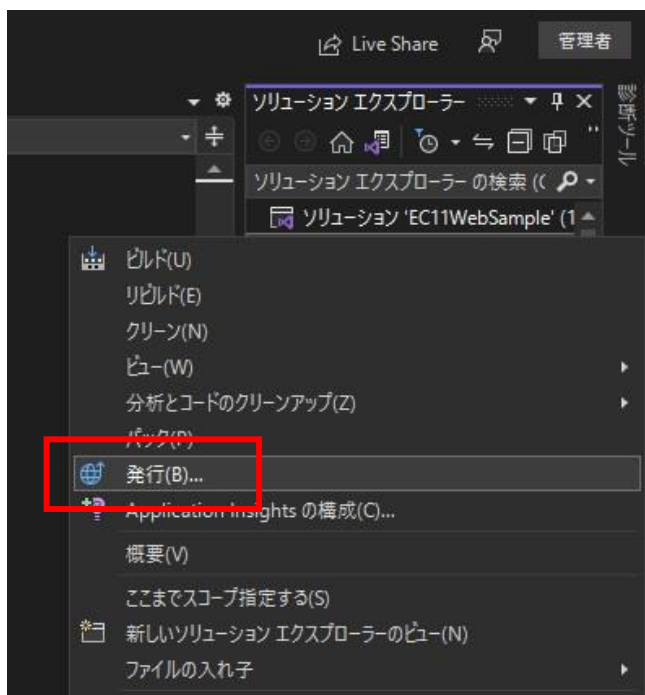
IIS と .NET ランタイムの準備が整ったら、アプリケーションを Web サーバーへ配置します。方法はシンプルで、Web サーバーに配置できるようにアプリケーションを加工した後、アプリケーションのフォルダーをリモート接続先のサーバー上にコピーペーストします。

なお、この手順で使用しているアプリケーションは以下の URL からダウンロード頂けます。

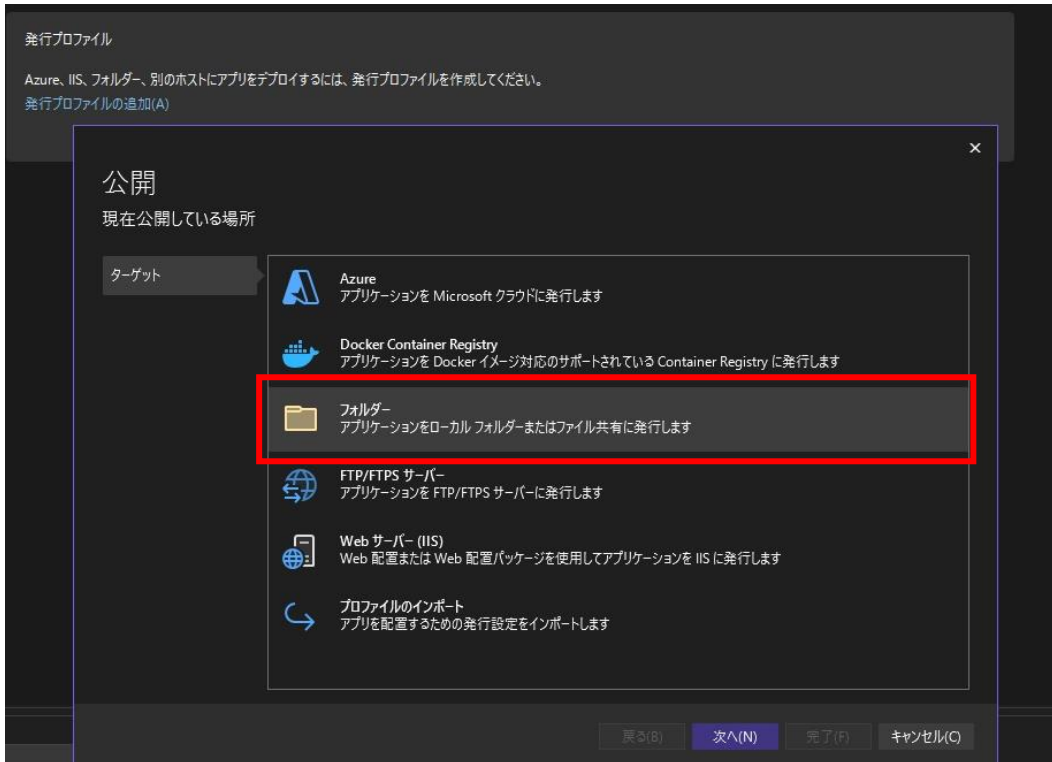
<https://www.adv.co.jp/download/blog/deploy-excelcreator11-ec2-windowsserver2022/EC11WebSample.zip>

Web サーバーに配置する為のファイルを生成

作成済のアプリケーションを開発環境の Visual studio で開き、プロジェクト上で右クリック、[発行]をクリックします。

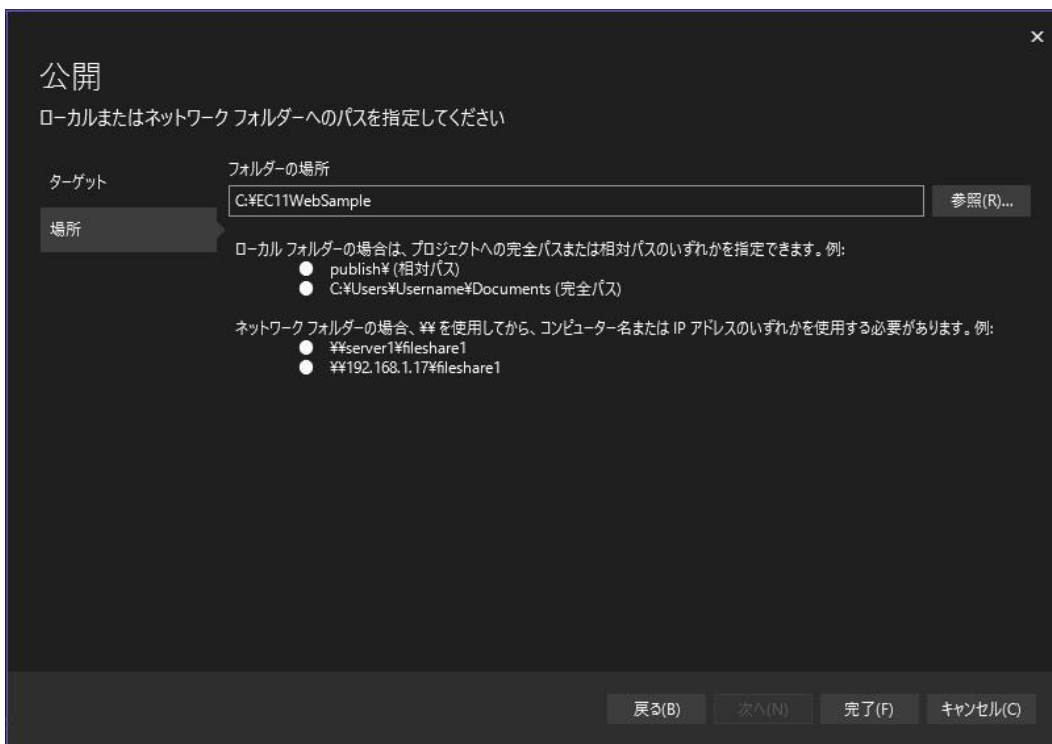


発行プロファイルを作成します。今回はターゲットに“フォルダー”を選択し、[次へ]をクリックします。

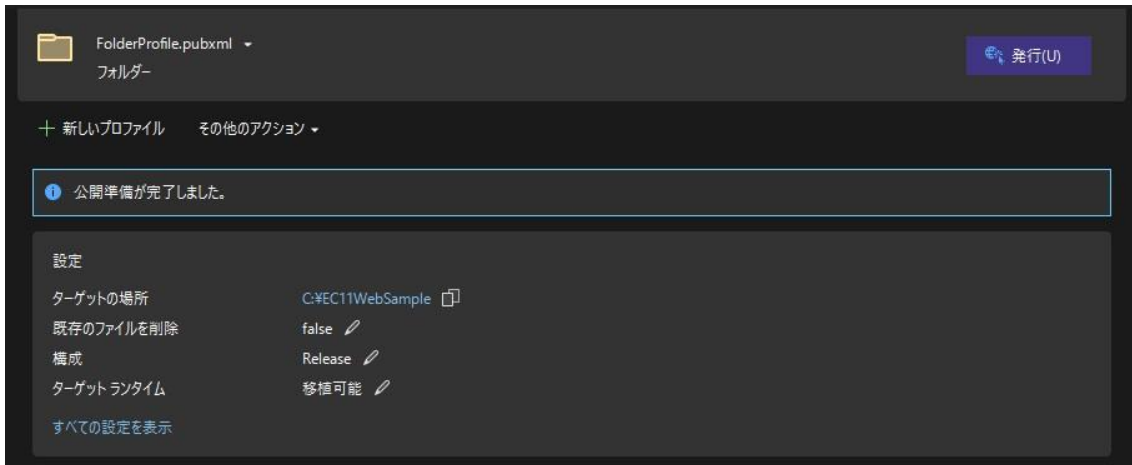


ファイルの出力先を指定します。任意の場所を指定して下さい。

今回は C:¥の直下に新規フォルダーを作成して指定します。

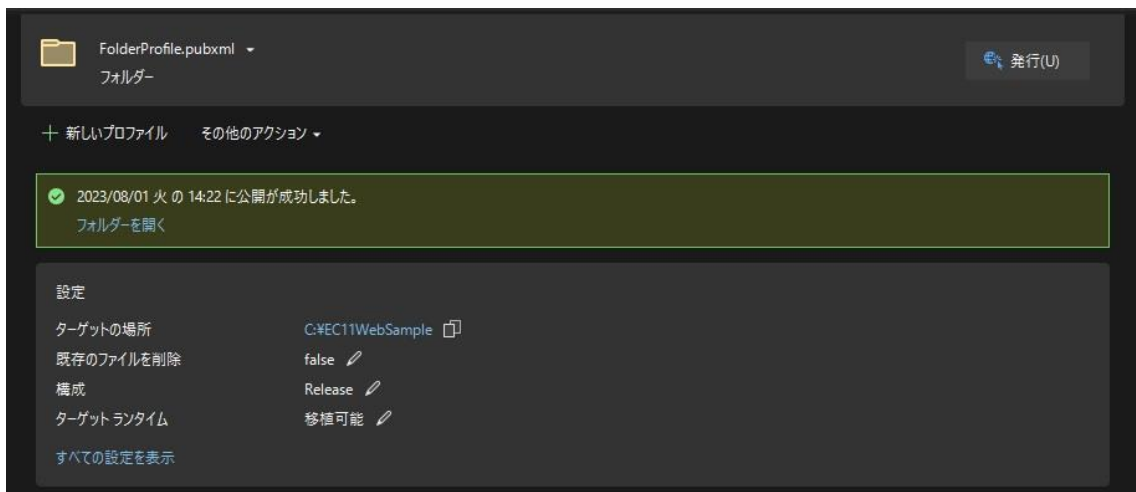


プロファイル作成が完了すると、公開準備が完了した旨の表示が出るので、[発行]ボタンで発行します。



発行が正常に完了すると、公開が成功した旨の表示が出ます。

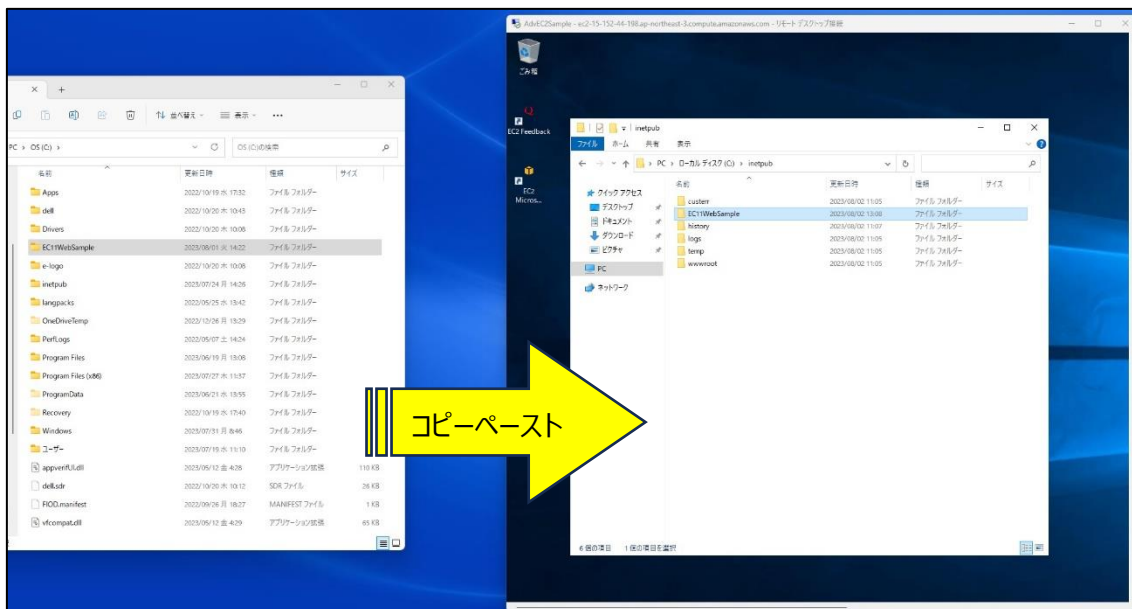
Visual Studio 上での作業は以上になり、Visual Studio は終了して構いません。



アプリケーションを実行環境に移動

発行したアプリをフォルダごとコピーし、Windows Server 画面を表示させて、任意の場所にペーストします。今回は C:\inetpub 直下にペーストします。IIS のインストールが完了していれば、C:\¥の直下に inetpub フォルダが作成されている筈です。

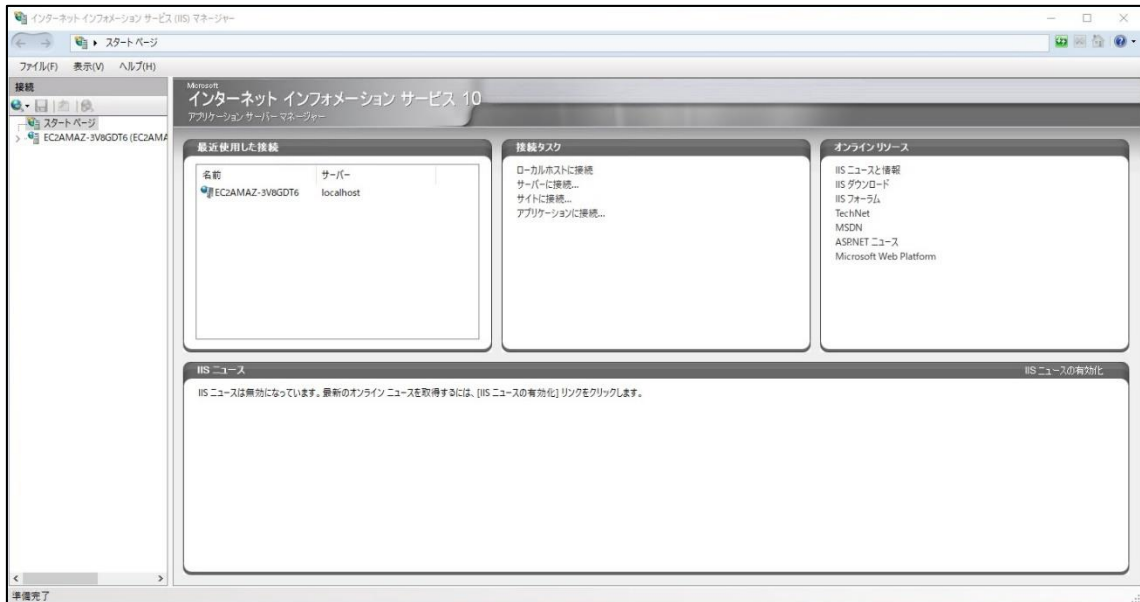
※リモート接続画面を縮小して並べています。



IIS を使用してアプリケーションを公開

いよいよ Windows Server 上で Web アプリを公開する準備になります。

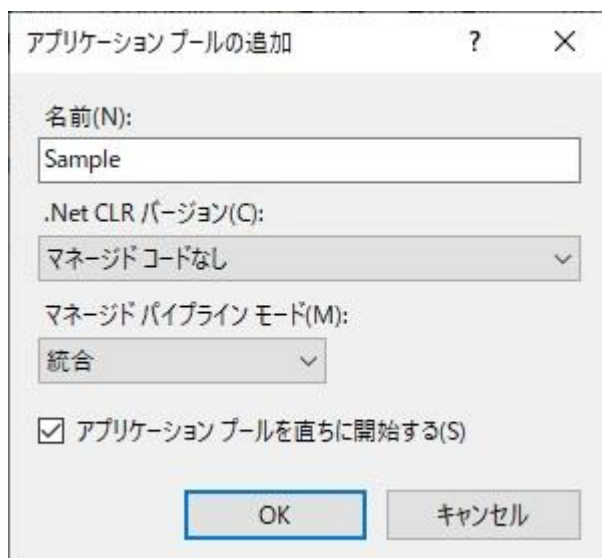
IIS マネージャーを起動し、動作確認時と同様に、左メニューバーのリストを展開します。



アプリケーションプールの追加

アプリケーションの公開前に、アプリケーションプールを設定を行います。

[アプリケーションプール]を右クリックし、“アプリケーションプールの追加”をクリックします。



アプリケーションプールの名前は任意です。今回は“Sample”とします。

.Net CLR バージョンは“マネージドコードなし”、マネージドパイプラインモードは“統合”を選択して[OK]をクリックし、アプリケーションプールを追加します。

Web サイトの追加

左メニューバーのリストから[Default Web Site]を右クリックし、削除します。
次に[サイト]上で右クリック、[Web サイトの追加]をクリックします。

Web サイトの追加

サイト名(S): AdvEC2Sample アプリケーション プール(L): Sample 選択(E)...

コンテンツ ディレクトリ

物理パス(P): C:\inetpub\EC11WebSample ...

パスルー 認証

接続(C)... テスト設定(G)...

バインド

種類(T): http IP アドレス(I): 未使用の IP アドレスすべて ポート(O): 80

ホスト名(H):
例: www.contoso.com または ma

アプリケーション プールの選択

アプリケーション プール(L): Sample

プロパティ:

.Net CLR バージョン: マネージドコードなし
パイプライン モード: 統合

OK キャンセル

Web サイトを直ちに開始する(M)

OK キャンセル

アプリケーションプール：先ほど作成したアプリケーションプールを指定します。[選択]ボタンをクリックすると、アプリケーションプールの選択画面が開きます。

サイト名：任意です。今回は“AdvEC2Sample”とします。

物理パス：アプリケーションを配置したフォルダーを指定します。

バインド については、今回は以下の通り設定します。

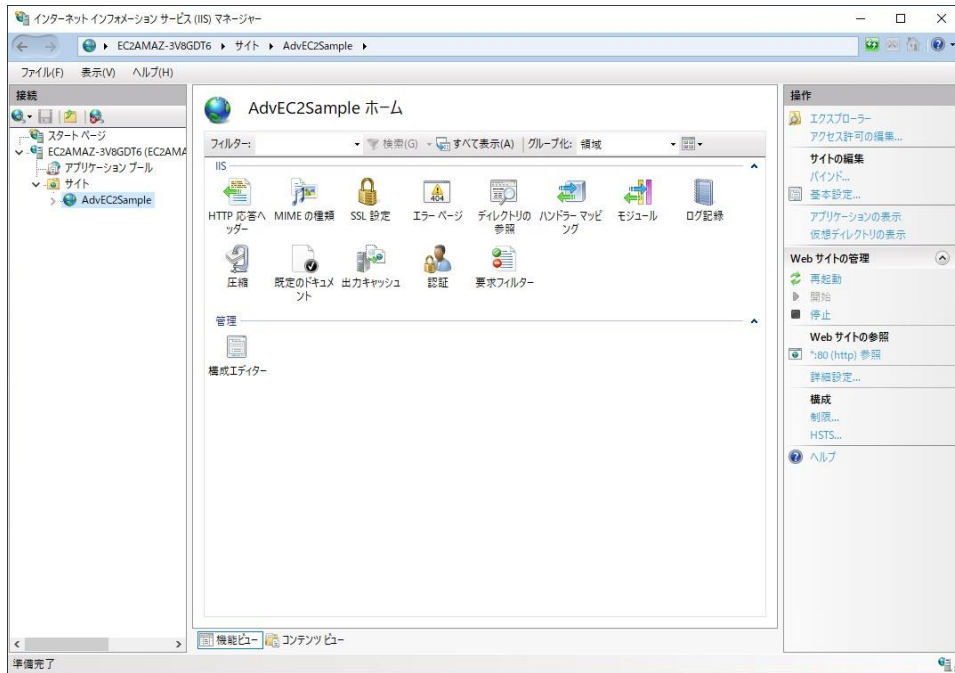
- ・ IP アドレス：未使用の IP アドレスすべて
- ・ ポート：80
- ・ ホスト名：空欄

Web サイトを直ちに開始するにチェックを入れ、[OK]をクリックします。

アクセス許可と認証の設定

Web サイトの追加が完了したら、サイトへのアクセス許可および認証について設定を行います。

[サイト]の下に先ほど入力したサイト名が表示されたら、サイト名をクリックしてホーム画面を表示させます。



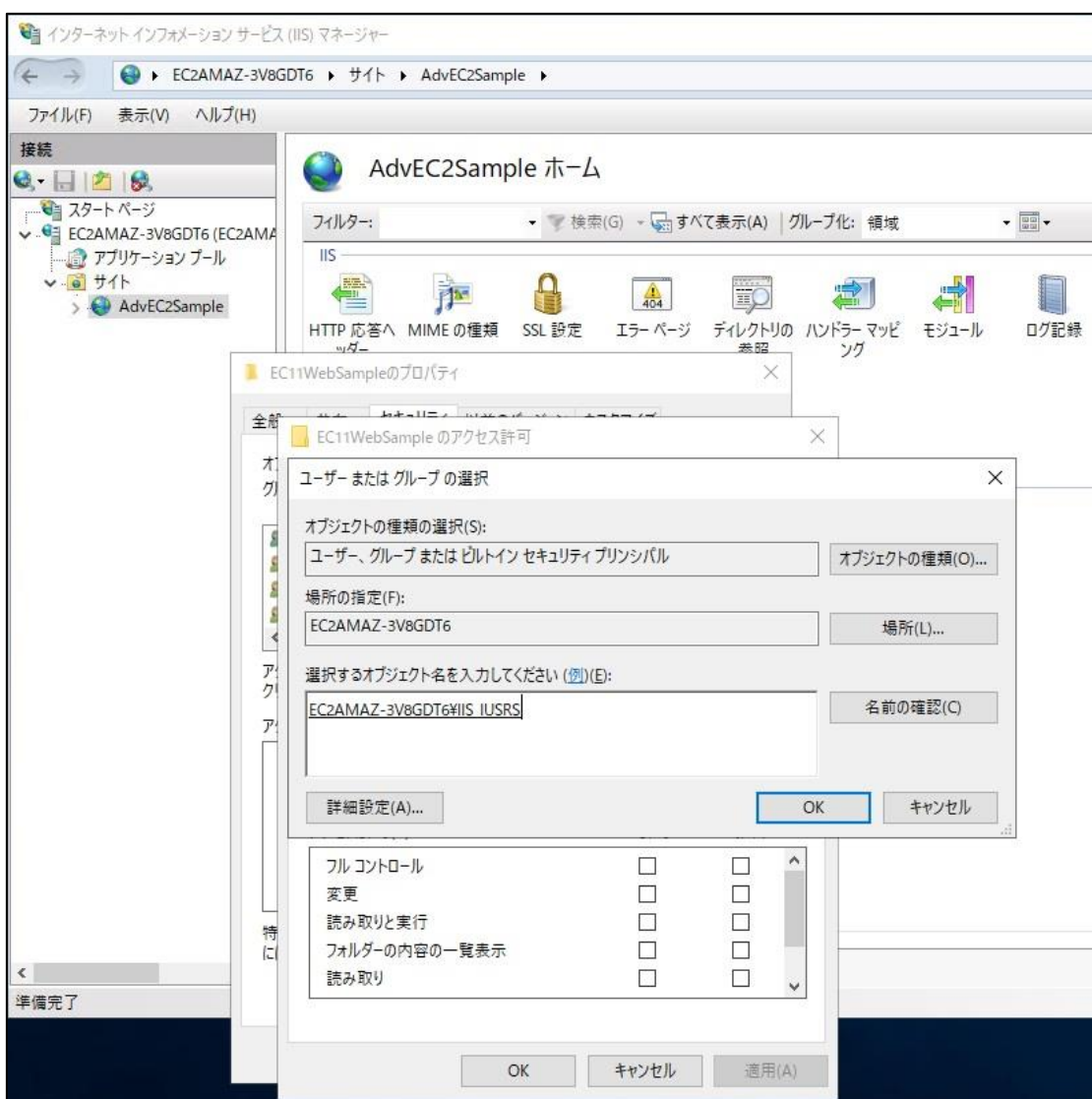
アクセス許可の編集

サイト名を右クリック、[アクセス許可の編集]をクリックし、フォルダーのプロパティを編集します。

[セキュリティ]タブを選択し、[編集]をクリックすると、アクセス許可の編集画面を呼び出せます。

[追加]をクリックし、“ユーザーまたはグループの選択”画面を呼び出したら、テキストボックスに“IIS_IUSRS”と入力し、[名前の確認]ボタンをクリックします。

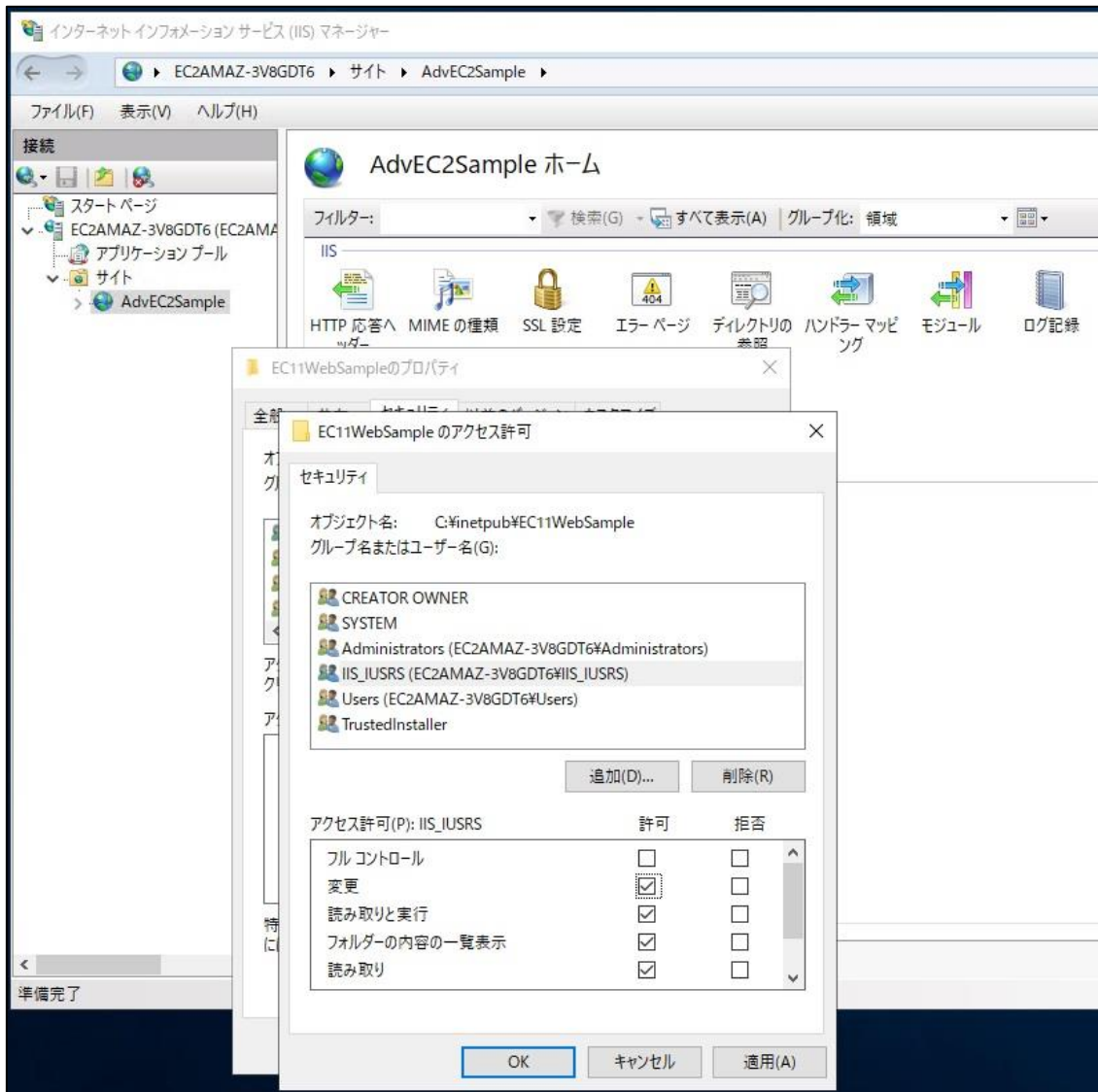
先程入力した文字列の前方にサーバー名が追加されていれば、[OK]をクリックします。



IIS_IUSRS に対するアクセス許可の編集を行います。

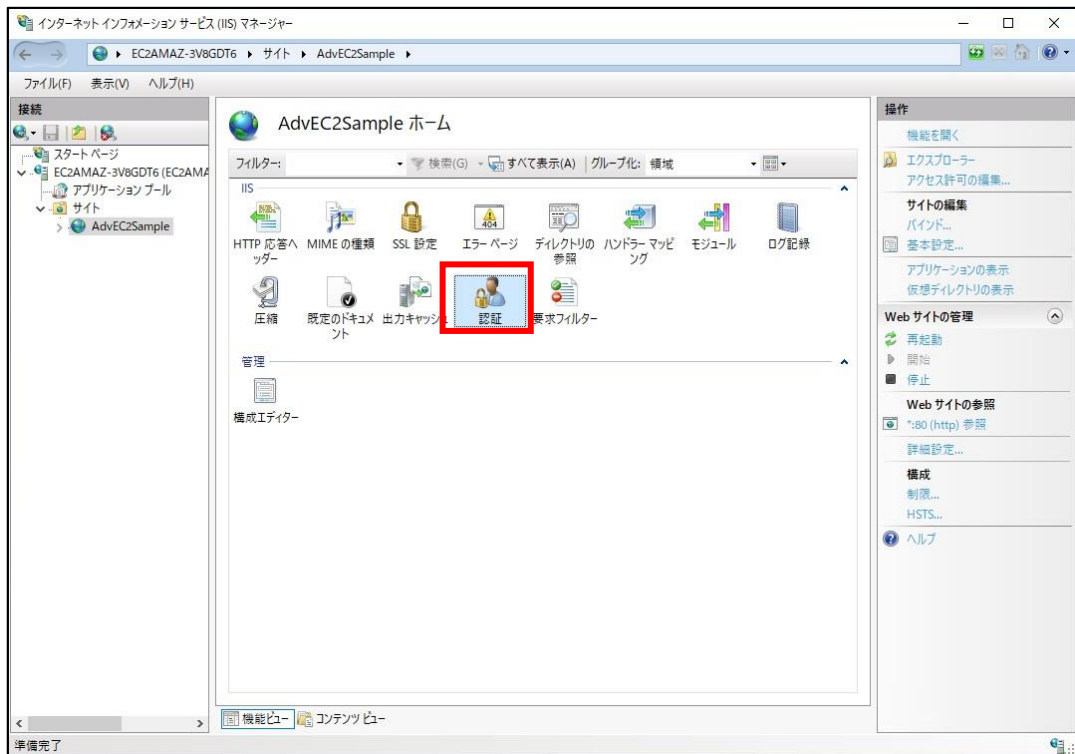
アクセス許可のチェックボックスは“変更”もしくは“読み取りと実行”を任意で選択します。

今回は“変更”にチェックを入れ、[OK]で閉じます。プロパティ画面も[OK]で閉じます。



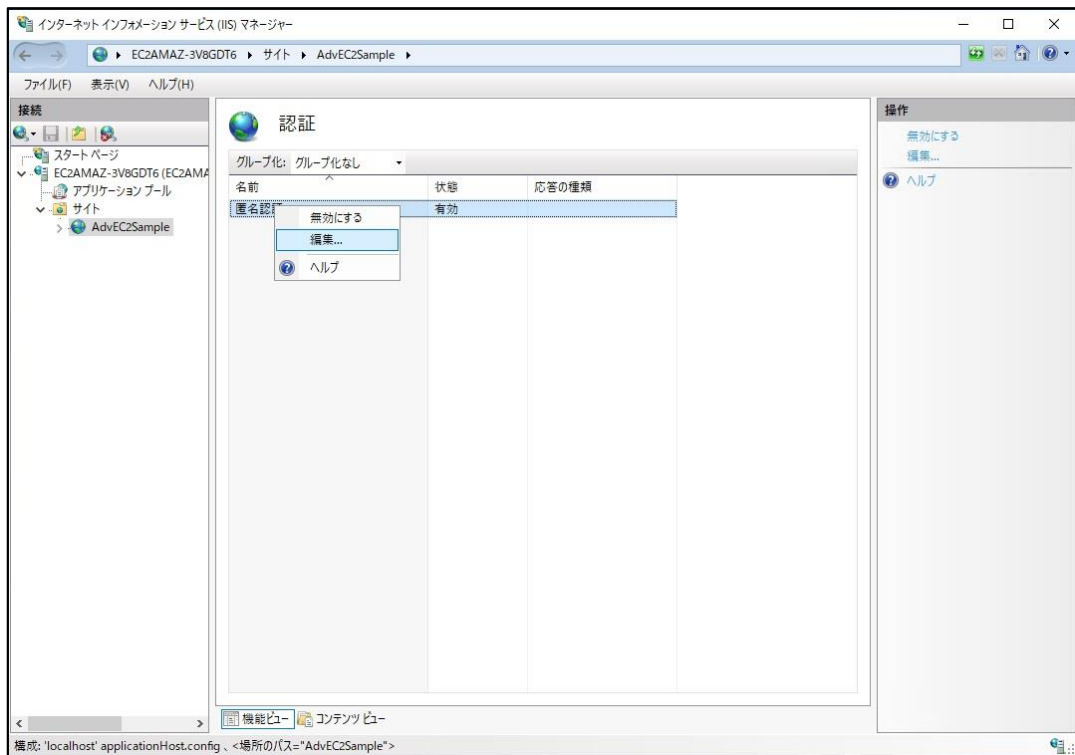
認証資格情報の編集

中央の[認証]をダブルクリックし、画面を移動します。



匿名認証を右クリックし“編集”をクリックすると、認証資格情報の編集画面が表示されます。

※認証の名前一覧は、環境によっては他の名前も表示されている場合があります。



今回はアプリケーションプール ID を選択します。

匿名認証資格情報の編集

匿名ユーザー ID:

特定のユーザー(U):

IUSR 設定(T)...

アプリケーションプール ID(P)

OK キャンセル

[OK]をクリックして閉じたら、IIS マネージャー上での編集作業は終了です。IIS マネージャーは閉じても構いません。

再び AWS EC2 画面でインスタンスのパブリック IPv4 アドレス、もしくはパブリック IPv4 DNS をコピーし、ローカル環境のブラウザからアクセスします。

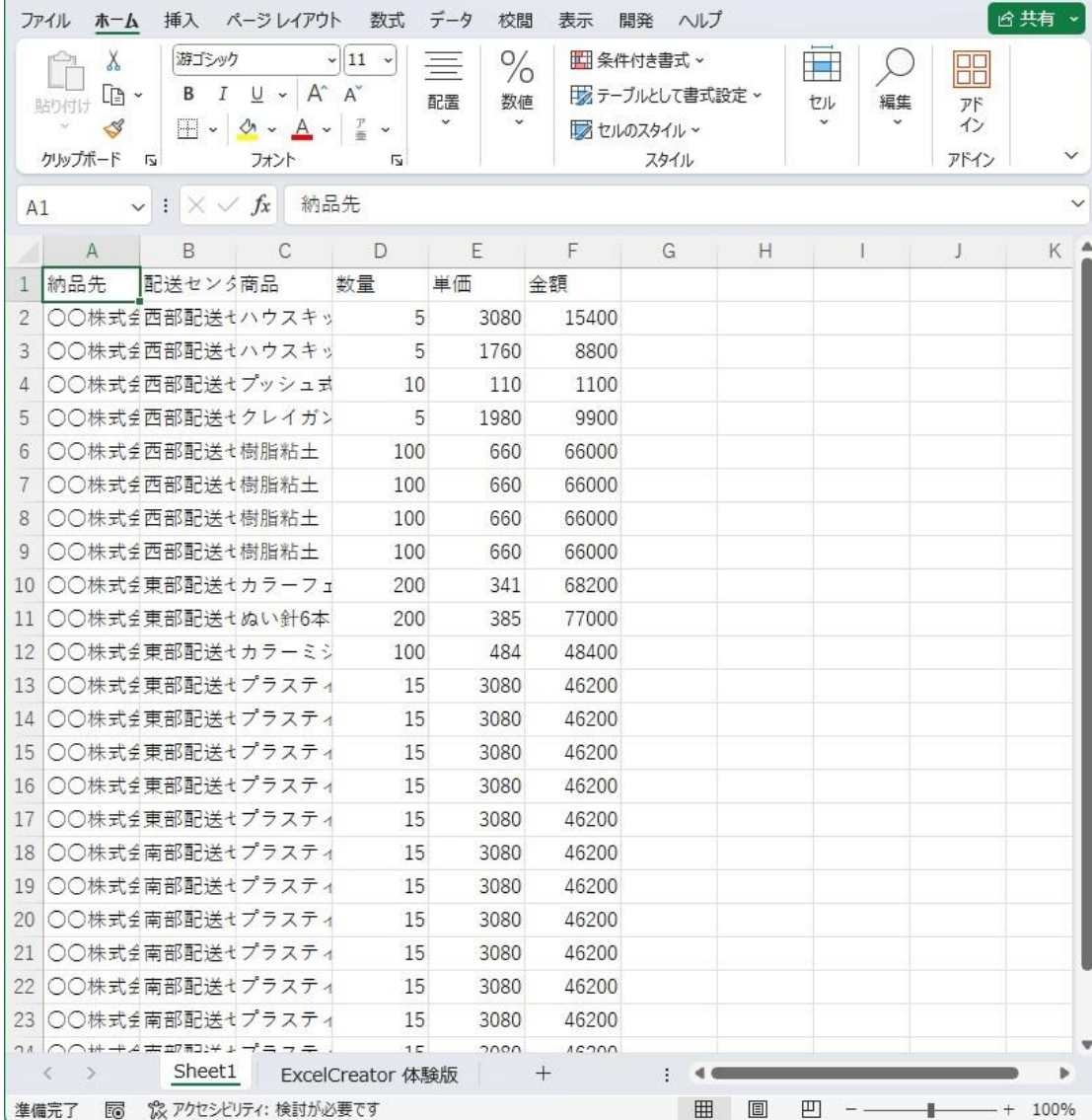
期待通りの画面が表示されれば公開完了です。



ダウンロード後の Excel ファイル

[データ一覧]

取得したデータの一覧を新規作成した Excel ファイルに書き込み、ダウンロードします。



The screenshot shows the Microsoft Excel interface with a data table. The table has the following columns: 納品先 (Delivery Location), 配送センター (Distribution Center), 商品 (Product), 数量 (Quantity), 単価 (Unit Price), and 金額 (Amount). The data is organized into rows, with the first row being the header and subsequent rows containing specific product and pricing information.

1	納品先	配送センター	商品	数量	単価	金額
2	〇〇株式会社	西部配送	ハウスキッ	5	3080	15400
3	〇〇株式会社	西部配送	ハウスキッ	5	1760	8800
4	〇〇株式会社	西部配送	PUSHU式	10	110	1100
5	〇〇株式会社	西部配送	クレイガン	5	1980	9900
6	〇〇株式会社	西部配送	樹脂粘土	100	660	66000
7	〇〇株式会社	西部配送	樹脂粘土	100	660	66000
8	〇〇株式会社	西部配送	樹脂粘土	100	660	66000
9	〇〇株式会社	西部配送	樹脂粘土	100	660	66000
10	〇〇株式会社	東部配送	カラーフェ	200	341	68200
11	〇〇株式会社	東部配送	ぬい針6本	200	385	77000
12	〇〇株式会社	東部配送	カラーミシ	100	484	48400
13	〇〇株式会社	東部配送	プラスティ	15	3080	46200
14	〇〇株式会社	東部配送	プラスティ	15	3080	46200
15	〇〇株式会社	東部配送	プラスティ	15	3080	46200
16	〇〇株式会社	東部配送	プラスティ	15	3080	46200
17	〇〇株式会社	東部配送	プラスティ	15	3080	46200
18	〇〇株式会社	南部配送	プラスティ	15	3080	46200
19	〇〇株式会社	南部配送	プラスティ	15	3080	46200
20	〇〇株式会社	南部配送	プラスティ	15	3080	46200
21	〇〇株式会社	南部配送	プラスティ	15	3080	46200
22	〇〇株式会社	南部配送	プラスティ	15	3080	46200
23	〇〇株式会社	南部配送	プラスティ	15	3080	46200
24	〇〇株式会社	南部配送	プラスティ	15	3080	46200

[納品書]

取得したデータを基に納品書を作成し、ダウンロードします。

The screenshot shows an Excel spreadsheet with the following content:

納品書

〇〇株式会社 様 2023/8/30
納品拠点：西部配送センター (月末締め)

ハンドクラフトの店 〇〇〇〇
〒336-00xx
〇〇県〇〇〇〇市〇〇〇〇 x-x
電話：0xx-xxx-xxxx 担当：渡辺 〇〇

商品名	数量	単価	金額
ハウスキット 1	5	3,080	15,400
ハウスキット 2	5	1,760	8,800
プッシュ式型抜きセット	10	110	1,100
クレイガン	5	1,980	9,900
樹脂粘土	100	660	66,000
		合計	101,200

